

拾遺 都名所圖會

後玄武
右白虎

拾遺

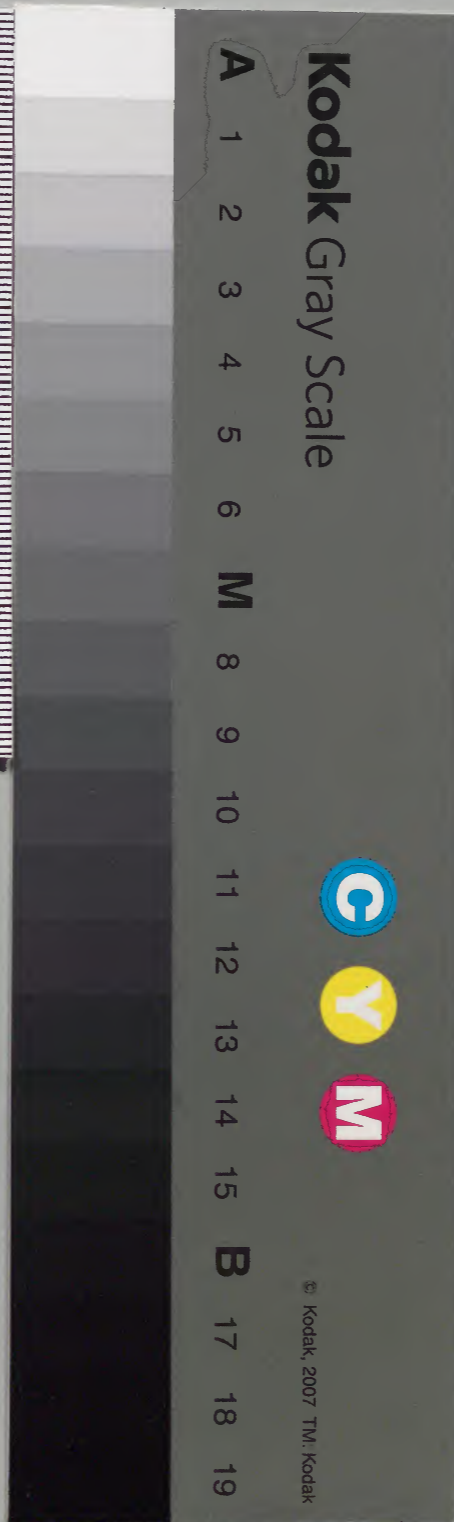
全五冊

内閣文庫		
函架	冊	號類
七二	一	八七三
一四	一	三

和書門		
冊架	函	號類
一	一	八七三
一	九	三

内閣文庫		
番號	和	8873
冊數	11 (10)	
函號	172	178

惠教院



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

拾遺都名所圖會卷之三目錄

後云云

元音

制度

取調

北城
復行者坐禪石

左院
大悲
補遺

靜原

足洒石

花瀬峠

妙見社

本切坂

神明宮

加茂寺
の梅

花園

龜山

炭焼

立田祠

茶王坂

螢石

乳巖

車坂

惟喬般若

棧敷嶽

小野橋

西来寺
五百羅漢像

大豆塚

幡枝八幡宮

福惜昆沙門

小野皇后御趾

歸一法眼塚

岩中柱落

満樹峠

雄毛祠

小野篁社

櫻井

辨天社

升塚

栗徳辨天

巷过

梶取社

龍王儼

溪川筏流

雲畑

岩屋山
真院 飛龍殿
護摩寺洞 香水

落葉宮

御栗栖野
 二子塚
 小野道風社
 大皇陵
 石不動
 六請明神
 大内山
 宅麻子塚
 北野泮蔵所
 惲地彦
 氷室社
 婦夫石
 大宮
 惟喬社
 光孝天皇陵
 十禅師社
 清瀧河
 白樂天杜
 極樂格
 惟喬王社 同塔
 須弥祠
 小野菅正墳
 若宮八幡
 淨藏貴所塔
 濟信法親王塔
 車塚
 浄室花見
 橘次宅
 安居
 山森
 若緑松
 策式部墳
 頼光墳
 不動石
 宇多野
 福王神
 地藏院
 花園
 龍翔寺旧趾

右白虎目錄

常盤源光庵
 水尾陵 水尾寺
 定家卿塚
 辨財天祠
 堀抜川
 鼎淑孺人墓
 臨川寺
 大堰川 漢釣林
 西行櫻
 最福寺
 長福寺
 西院
 細谷直指庵
 福田寺
 生六道
 化野念佛寺
 療病院
 落柿舎
 岷峨野
 後岷峨院陵
 大悲閣 子以碑銘
 峯堂 谷堂
 梅津尤衛門塔
 春日社
 北岷峨大覺寺
 後龜山院陵
 中院觀音
 五所明神
 三帝御塔
 下岷峨車折社
 兼明親王亭
 龜山院塔
 野依
 真如寺
 山之内
 住吉社
 水尾清和天皇社
 仙翁寺
 西行庵
 菖蒲谷
 圓光大師廟塔
 鹿王院
 龜尾瀧
 法論寺 細圖
 別雷峯
 神代三陵
 徳成寺
 高土寺

秀傳庵
 天文臺
 福源院
 藤原兼房の莊
 御靈社
 觀音堂
 長法寺
 丹屋谷 行道石
 院墓 佛谷
 業平遺蹟
 長岡大満宮 補遺
 宿院成就院 御心社
 神階山

宗圓寺
 御所内
 津寺
 老坂地蔵
 保古羅明神
 大原野
 揚谷觀音
 淳和帝陵
 廣谷
 三尊寺
 成恩寺

寶藏院
 勝定院
 三宮
 久世格
 子敦盛祿
 善惠上人塔
 浄土谷
 長岡舊都
 向町 興隆の真經
 神足社
 神宮寺

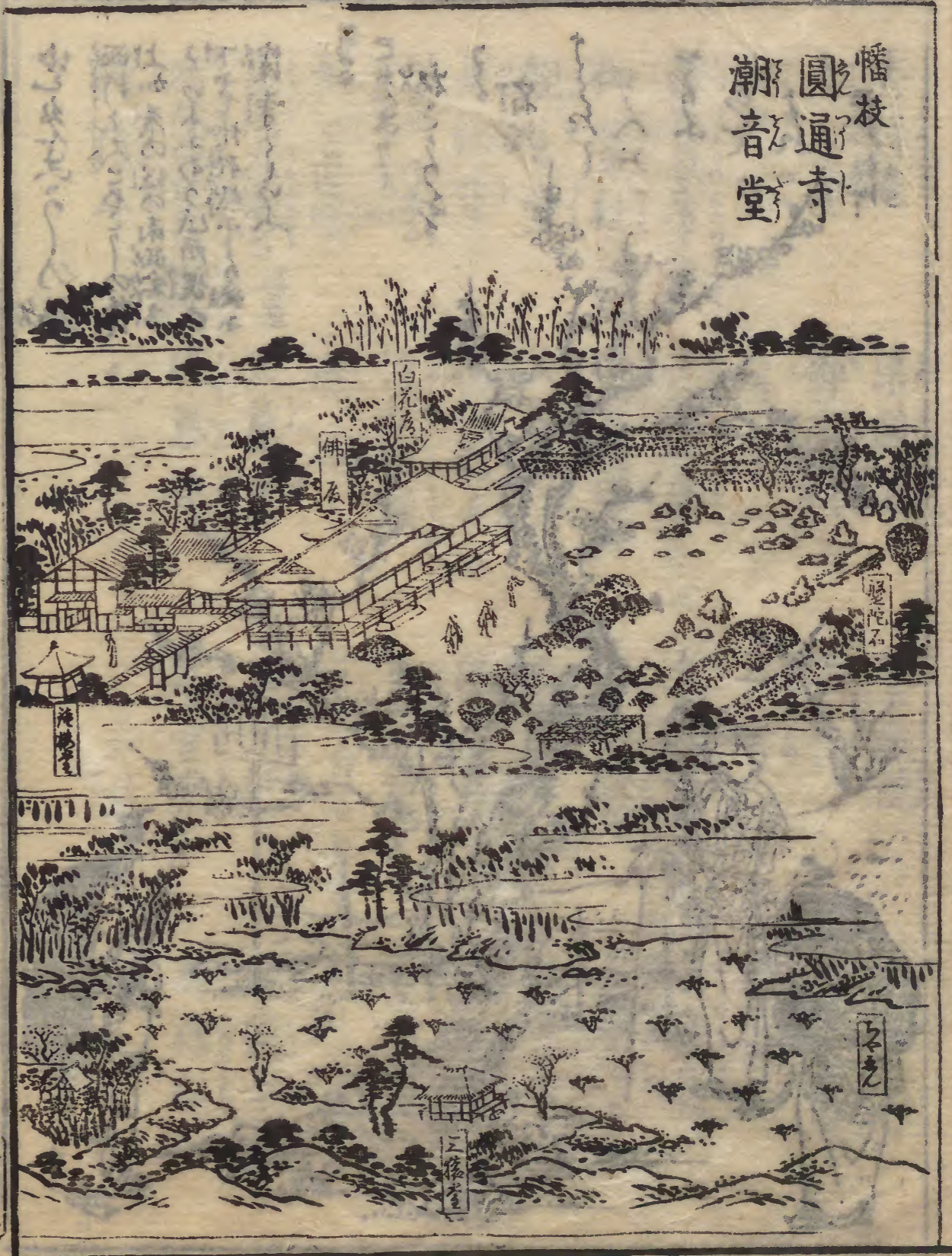
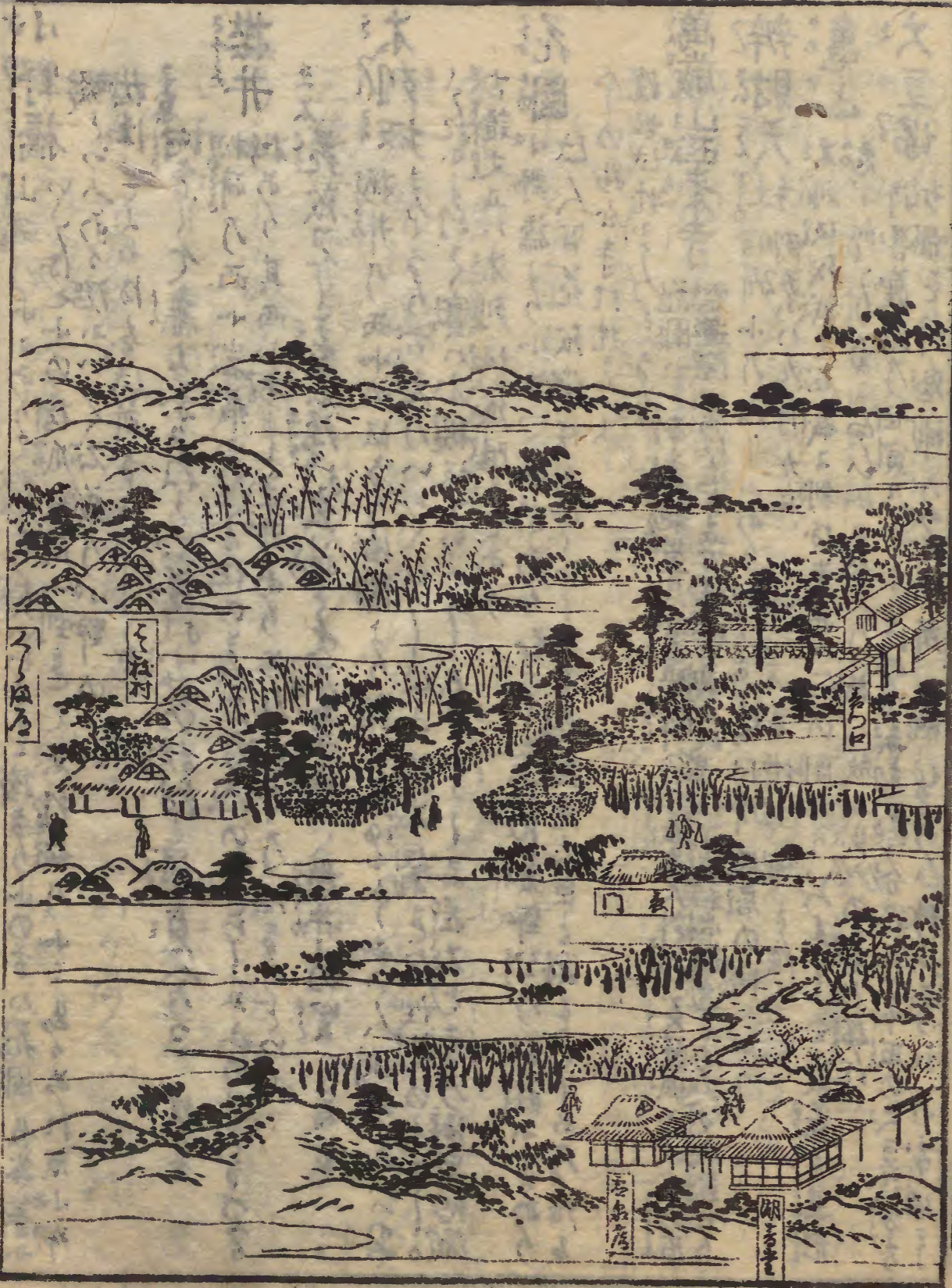
野宮 同清水
 幸林房墳
 桂里
 伊勢宅
 蓮生寺
 物集女永正寺
 衆願寺
 皇居旧址
 開田 法善檀林
 勝龍寺
 袖摺松

坐免まりの梅
 西行上人とちりりの梅
 上加屋の堤の南西念
 とつふあつは所堤の
 下で地蔵像ふりぬふ
 窪寺いもい

新古今
 坐免まう
 梅まう
 宿院



新古今
 坐免まう
 梅まう
 宿院
 西行法師



幡枝
圓通寺
潮音堂

小野橋 山端乃小ありて巽より麓に下りて橋あり小の方ハ花園長谷等小

巽よりありて西の樹派派西に到ると本村橋乃小ありて小野の

橋津とよめゆをけ所なるは一しりせ

松崎乃西小岩藏のいづる極のま右乃左ののりつて五山の井とつる

花坂乃一と名を流れ名流とて本村をくつて松井の里 為家

本列坂 松井乃西山の坂あり後陽より群れ見ゆ人狐坂といふ

古證文より本列坂坂限あり

花園 小野橋より小十二町ありて大に夏野公乃別荘ふりたり

今乃の妙公寺此地といふ

萬歳山 西来寺 靈運院乃属は近年五百羅漢と興立現住は直和尚進下て大が成花なり

辨財天社 妙見社 地所民居の同あり

亀山 妙見社 地所民居の同あり

大豆塚 妙見社 地所民居の同あり

大悲山 圓通寺 檀越村 禪宗ありて佛殿乃本尊を聖觀音

坐像三人計 大悲園通の額を後水尾院に震翰なり

朝音堂乃本尊の准服觀音 坐像の又西園世之所に觀音と安重尼

は地より先ハ園光院文英尼公の宅地也則尼公ハ園を大に基任公

乃女あり寺となし妙心寺龍泉の祖實性禪師と因中

るに 後水尾院在位の清時清祈禱所あり 清震翰

清衣等が賜く寺鎮とるなり同帝行幸の清茶亭あり

三猿堂靈泉庵ハ門前のある丘ありて園光院塔を本堂

乃むりしふあり 延寶八年十一月十一日 都ては地の底造小堀遠別

れ好みて東の方より比叡山とを中へ採壽系真妙ありて盤

陀石といふ名石あり又白華堂ハ佛殿の小ありありハ桜花敷く

ありてまのい入ふはなりて寂寥なる花の蔭ハ都下の騷人群々あり

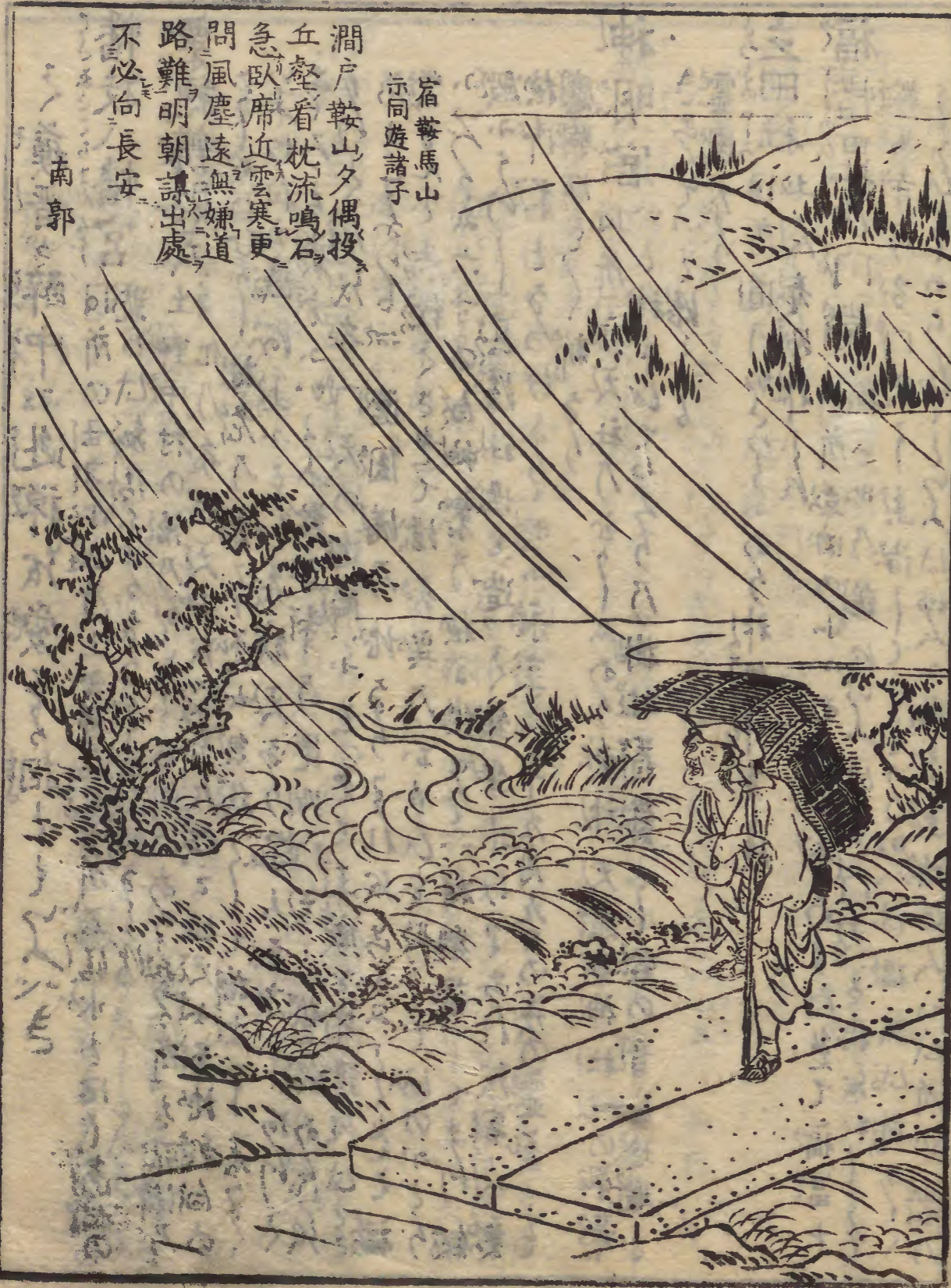
炭竈里



宿鞍馬山
示同遊諸子

澗戶鞍山夕偶投
丘壑看枕流鳴石
急臥席近雲寒更
問風塵遠無嫌道
路難明朝謀出處
不必向長安

南郭



白河院源雪乃ありと書見の行幸あるがごとく清供れ
人少くめくは幸年のきこえし様やうそ生清まそ面白
雪う那何うこへむくへた小野の白を左店更のりこえむらやと何
られくろ飯清隨身ありて従者と馬にのせし被さへとせまのせ
くつは幸ゆるとて清車をりては清用意いべしと申た
きしをわねきぬ又具ありくろ飯せらるふあつとくるそ寢殿十間
ふるんこころれとるきるをのりて清らんをる幸も何いひく
と申人まろは白を左店更書見人い内えつる幸申しとそりだ
たるみきたさくてなんたう海くは左店を清幸ありて
清車やうそ入てとてのりて清らんをる幸も何いひく
えん飯取んとそめまろくろ巧葉たきみきくる幸二人一人を
洗乃おたふ玉のけろ飯根のさしに合れ立花一うさそくれ
くろ飯おとりきる一人を序口乃池子小酒飯のれく

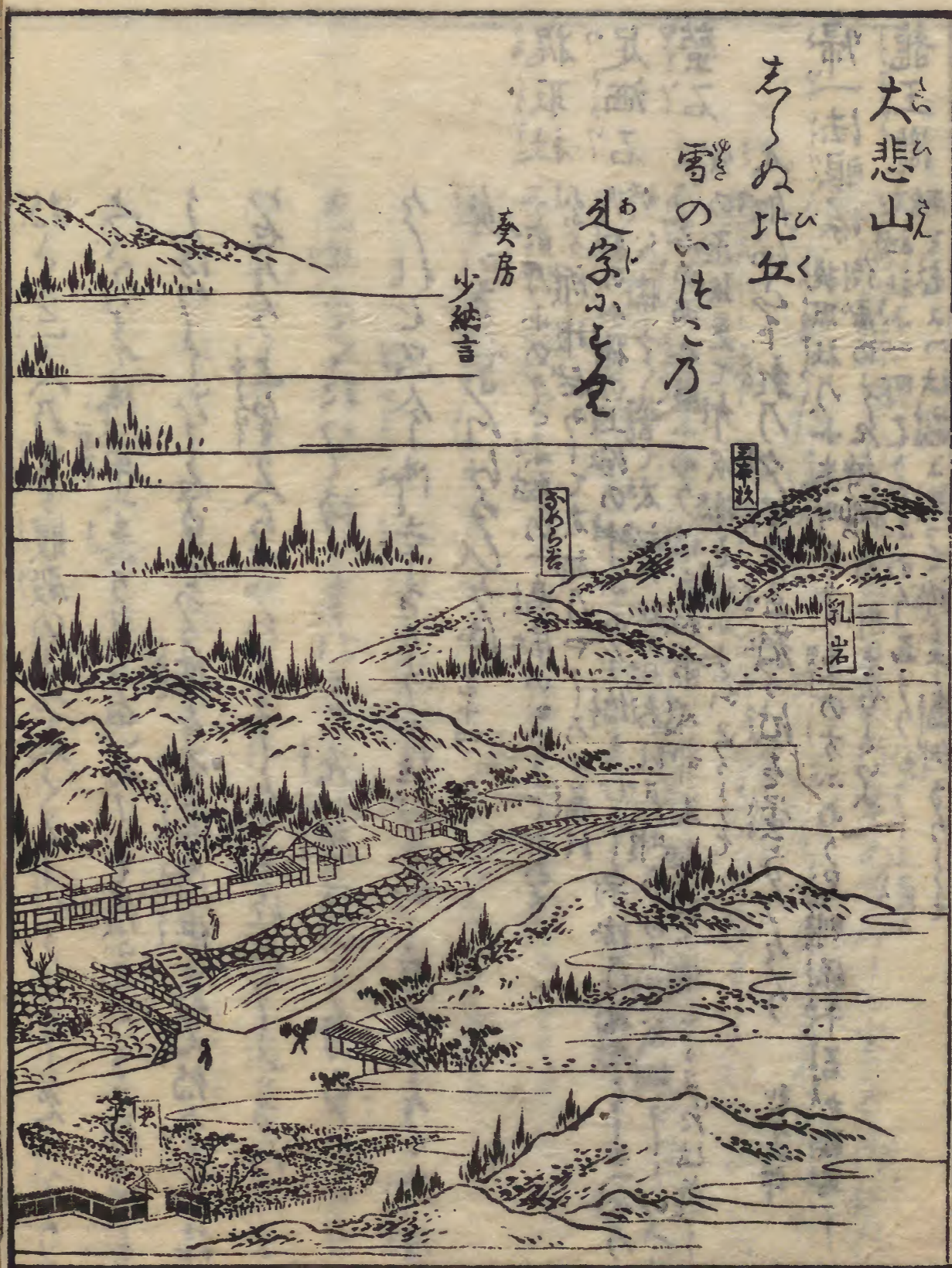
おとり二人乃を寢殿のまんとくくれく飯ありぬふとり
くろ飯を清車へ参りくるさぬみくを優ふあんえゆる酒を
うほりてくろ飯をある橋を季通清供ふおんゆるふ給
りせくろ飯上をくろ飯をりてまろくろ飯に控りくろ飯り
き世あくたりはゆきしを左店一所飯つておられとり
くろ飯を只今清幸ありしはげまろくろ飯をる清供
ぬふさんありけりひくは 卷十四

梶取社
足洒石
螢石

二階乃小のり本船の一鳥居のりこころあり
梶取の小樹の上の神ありけり宇治乃橋をくろ飯乃
螢石の西の飯ありけり社小日奈具時くろ飯足洒石のり
本船のり下乃けり小玉おる飯を盛るるなり

龍王龍
帰一法眼塚

梶取社乃小半町くろ飯東の方あり是則源牛若丸騎馬
龍王龍社小一町くろ飯ありけり是則源牛若丸騎馬
龍王龍社小一町くろ飯ありけり是則源牛若丸騎馬



大悲山峯定寺

當山の階陽乃山の方より行程十里鞍馬寺より

二邑あり大布施といふを宗旨を天台より聖護院に属し樓門を

南向みて金剛力士坂安んず余まより本堂の登は平十町あ

まを巖石嶮々として歩くや左右に老杉林として暗く

其中間小鏡堂あり傍乃石上より後寛僧都れ石塔塔あり又其

上の方小役行者堂あり又其上宗六所明神社

藏王八幡大菩薩加茂下上貴布祢大明神地主鏡智童子あり本堂を

當山乃護法神は建立のてりめ保元元年丙子二月朔日あり

南向みて巖上小建嶮造りて岩はゆるり本尊は十一面千手觀

音唐乃不空三藏の佛舍利觀世音胎心白山権現

開基は觀空上人建立の平相國清盛奉修職と記に

折當心の縁起は少納言信西入道の撰りて文藻祭然るる長章

ゆ其大意採和解とてあり又記に

夫一代の教主妙法蓮華の者窟窟ふめて圖案とのに世覺母乃衆

生坂村より人之清涼なるを化道と引く大聖世尊猶靈地と

行人争う勝境と捨ん佛子の求願とる所のものに元上正等なる遊歴

とる所のものに名山大岳れ境之偏歩跋涉と奉とする所いよと掌て寧

居るに鳳凰城乃地れから鞍馬寺の乾の方小靈地を山脚より山頂

に至りて佳々の奇峯あり連々として相接松栢鬱茂として日外峰崎嶇

佛子に地み至り戀々として去来ありらぬ息芽蒸とむきて杻息とる

幸尚し其心の躰を尋往詣乃便のく止宿止所定て宛驛亭此量

程をみまはしは外九品乃峰を益安養界小擬に

身二枚立盤手向と号し身三枚小屋居とるは省り西小崇峯あり牟尼山と号し

次一の嵩嶺あり善覺山といひ中品上生小象は有り身四枚阿弥陀山と号し

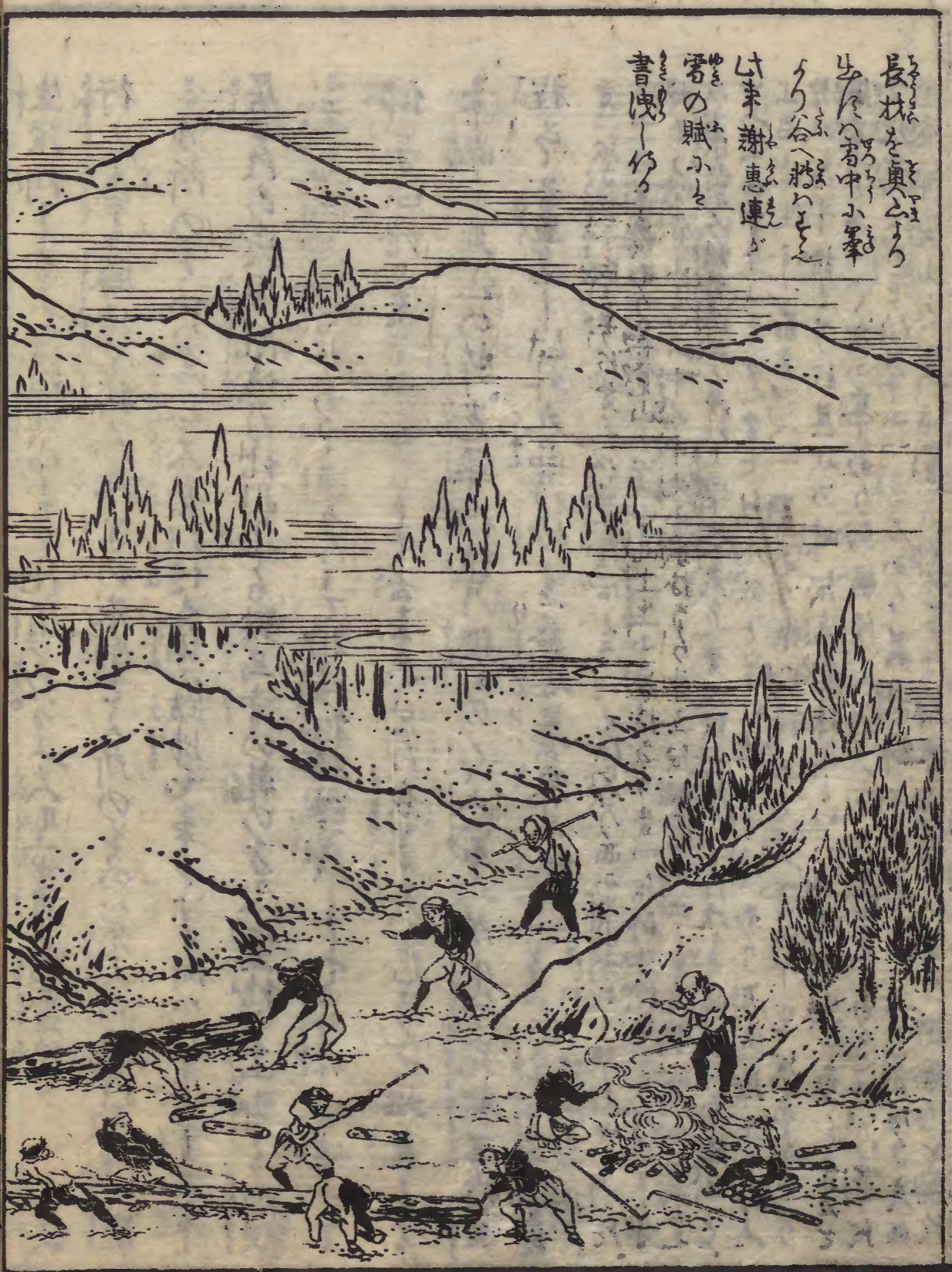
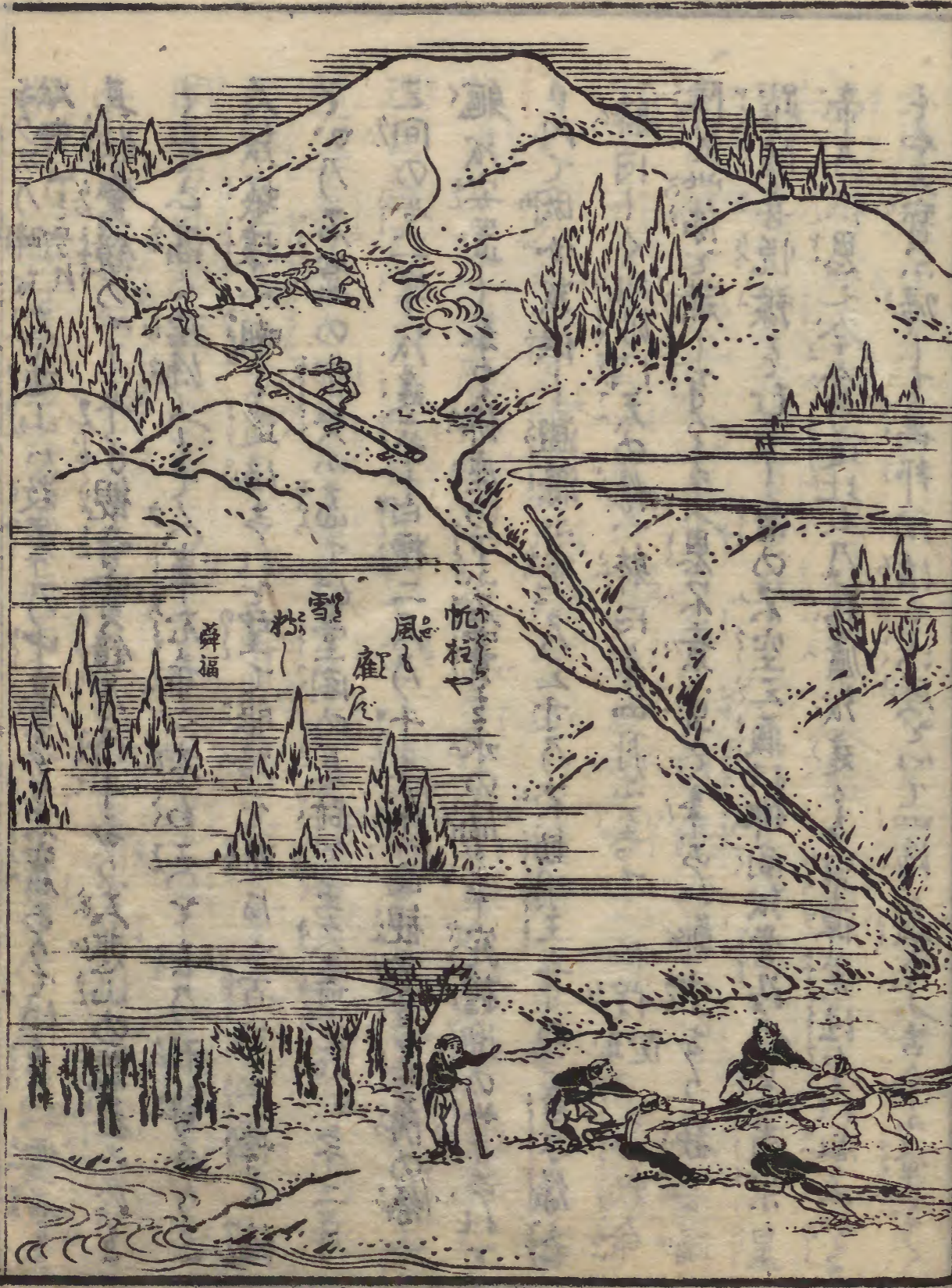
峰あり明覺山といひ中品中生小象は有り身五枚眼覺山と号し

次小崇岳あり離苦淨土と号し上品下生小象は有り身六枚無原と号し

上品上生小象は有り身七枚水飲と号し奇峰あり真色淨土といひ

上品上生小象は有り身八枚平地と号し其次の峰は真覺淨土といひ

次一の嵩嶺あり善覺山といひ中品上生小象は有り身四枚阿弥陀山と号し

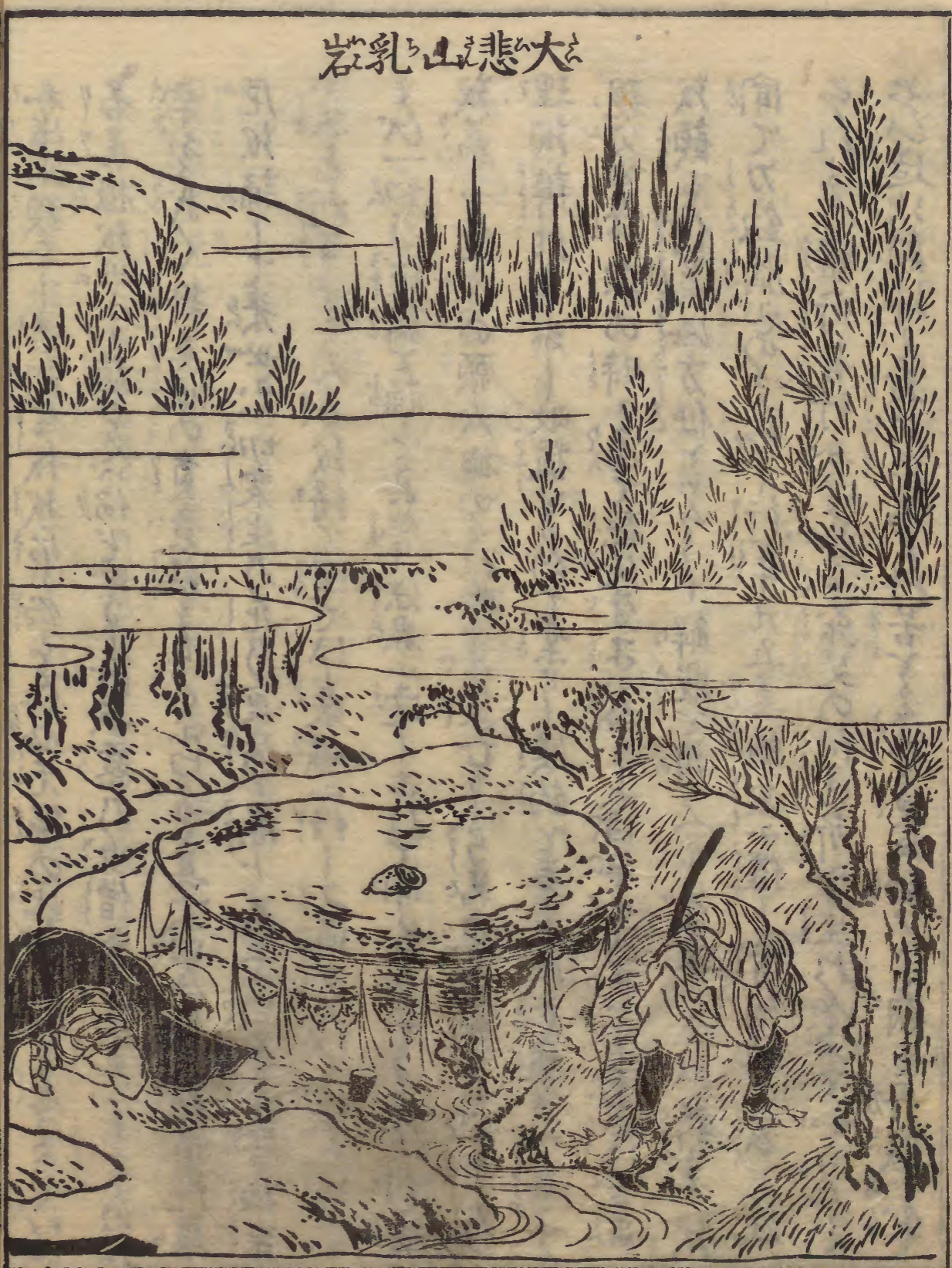
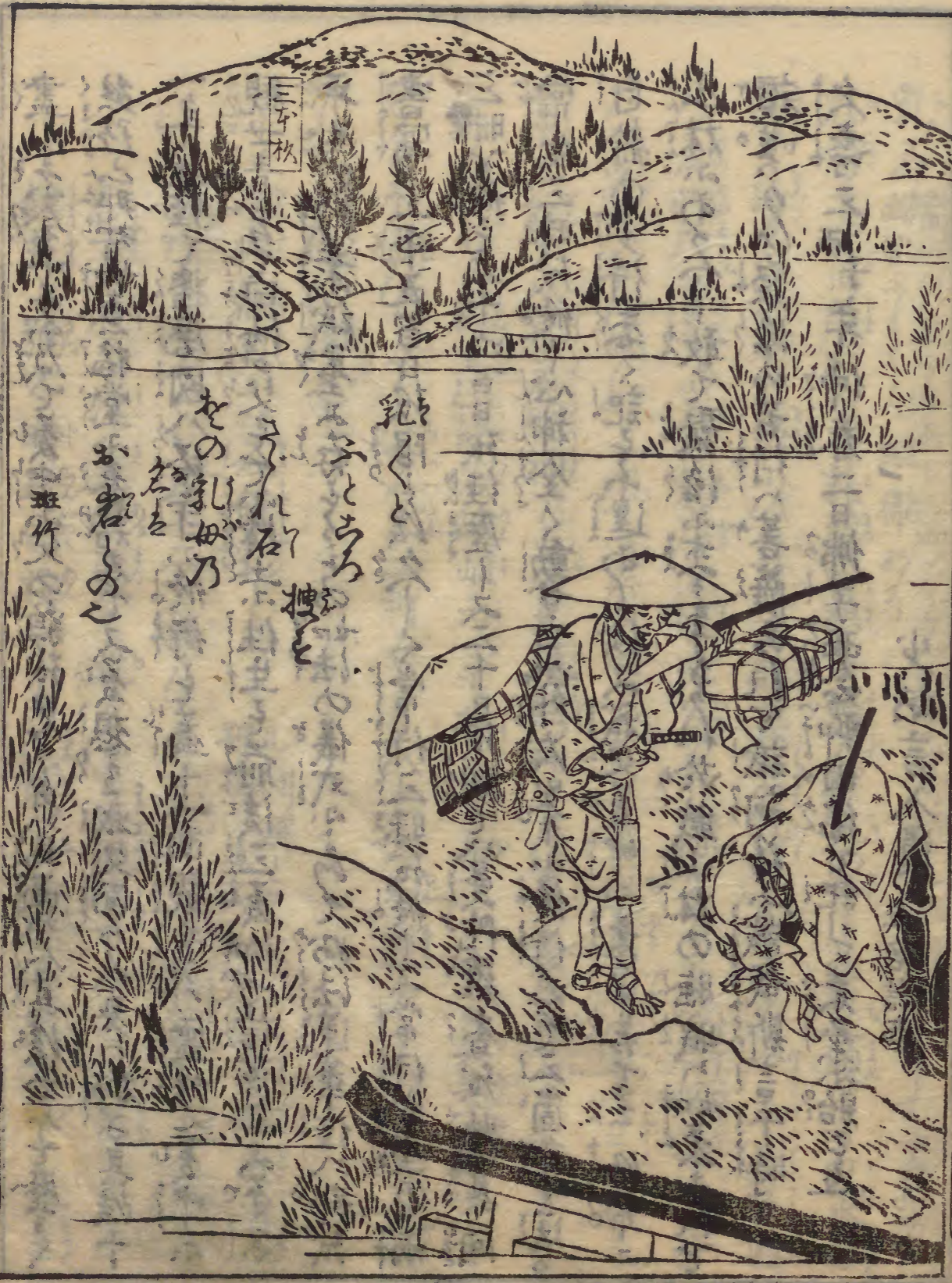


長杖を奥より
 歩たの者中小輩
 くら谷へ持たせし
 け未謝惠連が
 香の賦ふと
 書洩しけり

舟村
 風

あり次乃神大悲山の教奉乃中臺乃石窟ありてけき一靈石を
具狀鸞鏡のや一千手觀音寶鏡乃淨手あり大悲山の號蓋を
とを高く落下して人奉尤希之を白天とを乃形勢あり之
尺蟻壤の嘲て遙海ましと望て眼路を遮る之を百谷牛峰の編
乃石窟の中央にあてけ堂閣の基跡と並久壽元甲戌年二月
之間の堂宇に建立之白檀二尺乃千手十一面觀世音菩薩の像一
軀に安置し奉を佛座の下に石寶と水の滴を奉宛擔留のやありて
乃因伽供一瀬滌充一尺之寸乃不動明王五寸の二童子像を
一轉回トく毗沙門天の像一轉日本四月に至つて 仙院鳥羽 忽勅命命
降て此像を請しなる乃人恩不意出く奉られ鄭重あり歡喜踊躍
躍隨喜悅豫とむう唐の不空之藏佛閣に堂宇乃足肅宗皇
帝乃仁恩之今貪道比丘乃精廬に建る之寧禪定法をレ敷之を
とや二寶の歸して萬邦に治と六度を以て四海を撫り古今に業なく

和漢の類ふ若し柳生に我らは何ん必无縁の比丘弘願となる本を以てん
若善根に此ふ殖とふ何んに孤露乃少僧素意と果す本を以てん
幸あり我く抑善根の負意茲すらくはつる其一曰今生大佛頂陀羅
尼誦して来世一切衆生乃死乃重病と瘵し其二曰早く西方極樂
小生を柳生うんみ我らは何ん還ては巖岨に住す通方を以て法を經ふか
よび一切の經論と誦と其聲法界に遠くされて聞くその心をレ柳生
我らは何ん二途の願大概をレし身子じう弓馬の家衆生を因果乃
理に辨れ来ふし岐嶺を以て業を換釣と奉と次春蘊を一忽し
親父と母の時を以て親父身子命して曰平生の惡業来世に苦果
我ら顧と何為汝方便とめらし一解脱と祈ふ身子一よび斯奉我
聞て刀劔胸にあるや一行年は五善緣を催し首に柳生て衣を深く
されより難行苦行念を歩く我ら父の何の所に生れん奉と知らんと
多し造次顛沛も我ら父の苦を受る我ら知んと期を丹誠一心と



畫一系念三年及て夏中父の貌死々身馬面人其後二年と歴く
慈母之那智如意輪堂小奈措をて又夏想を我父面人人身の獅子其後十
一年旅經て播磨國八塔寺に修行と蓋十一面觀音入靈地之夏中
觀世音告て曰は父をて小澤赤生と前後之夏仰て信とて又予子
平生のの業紙墨又存とる如法の儀式からて妙法蓮華經八部
書寫し一千五百日旅限と久く常行之時旅經し又常行常坐乃兩
之時と候と又千六百日旅經し又二千日旅劇て八曼陀羅香灰燒其間
常坐之時旅經し心神全く動をて此外大峯に修行去て之箇年と送る
自餘の少行悉く記と違わぬ又我父夏中赤生と告て云は常
山林ふあうぐ敢て聚落ふ交る事あり於戲山林の睡眠は如來されと
讚嘆の聚落の苦行の菩薩されと詆訶は誠哉斯言干時
久壽之丙子年仲春二日佛子西念聊由縁と記して奉承不貽と也

少納言入道

法名信西

○乳石 當山門あり南十町ありありは所 石の狀表平うて裏れ方ふ
乳房十四箇所おのく乳頭の貌を婦人乳の如し其乳頭より乳水垂
滴り落ると乳を飲せぬ婦人は乳水と飲せぬ乳汁出ると一年若狭國
乃者此所へ泰り山の乳房を礎て家ありおろしに忽悩かし
大出崇孤をんふふめては所へ返り盡る其乳房石は石上あり
當ふ於く乳岩明神と崇免護法神と及華表の乳石より一町とあり
六町とあり都ては原谷嶮岨ありて樵夫歩し子不知案因あり
見る事協いごとく乳石谷二町とあり入ると本板とありあり大木
うて又類し稀と

本州綱目ハ石鍾乳とあり

九類とあり又石鍾乳の説

區ありとて其一二と摘んである事石鍾乳ハ大山の原谷

小生と石乃津氣鍾聚て乳とあり又滴溜て石とあり故に石

鍾乳と號く時珍曰按とる事范成大が桂海志ハ説とる事

詳明之云桂林の宜融山はく洞穴の中石鍾乳甚多仰て
石脈漏起る處を視れば即乳狀あり白くして玉雪乃如し
石液融結して乳林下垂して數峯山と倒るる如し峰端
漸く鋭て且長く氷柱乃如し杜端輕薄中空して鶯翎の
如く乳水滴瀝して己に且滴り且凝るる乳の最精きもの
竹管取以て仰ておれと取る 下畧 慎微曰 柳宗元崔連別與
書云石鍾乳の草木乃精きり土に依るるの陰陽の居るあり
本に迫くる所附てあり其性移りて直る石産に石精粗疎審
尋尺時異りて穴の上下土の厚薄石れ高下其差とるもの
固一性なり然も其精密ふよめて出るとの則油然として
清く旧然として輝り其穴數滑りて夷之其肌廉して微きり
されと食を人として榮花溫柔ありし其氣空を流して胃
板生し腸と通し壽老廉寧あり時珍曰石鍾乳の陽明經の

氣分乃藥之本經曰欬逆上氣治目と明り精とを
五藏と安し百節と通し九竅と和し乳汁と下し別録曰氣とを
虚換と補し脚弱疼冷下焦乃傷竭痰療し陰と強くと久しく
服ると延年延壽とを一類を好して老せぬ婦人服して
子ありしむ鍊せしめてさしと服ると人として滋養しむと曰
乳汁通せざる鍾乳粉を濃煎し用ゆありしに通茶と等分して
末し茶飲し練丸し方す乃しひて服とる本日云次必驗あり
柳當心とを穀峯田抱して五嶽の嵩と廬と乃金葉茶とを以て
同し觀空上人の傳はけ後ふあり今も續經の聲風小嶺し耳底乃
客とるりぬおれと訪秘して中へ入る石板回乃あり溪の水音と響
でたあり都て北勢の峽を過りておれ板攀登る石角ふ衣と釣友投り
首板止む常小啼鳥稀りて床乃音の杖音乃淋しき板解れて心
堂乃眠り板覺と猿の多くを風ふ吟しての峯ふ本はしむあり

堂へ御入

新渡戸

後次新渡戸時
人のこと
大木は海を
引寄せ水が
ふとよめる

へうへいよ

みんこく
みんこく
みんこく

あいの
あいの

若木宗



新渡戸のあかしの絶壁にて
去るもよしのあまのり
其水のらうらうなり
大木は海を引寄せ水が
ふとよめる
大井は小瀬とぬり
水神陽侯のらうら
うへいよ



月小傭とて断腸のさしとのうき冬れわふと香添くしとく
板入ふおよぶ鏡石といふを當ふの顔ふあり至つて峭壁より登
車ゆつて又門おみ核の大本何りて株の半より板十本ふり
おのく直小生立ぬ又當ふ乃小潰谷といふ所をむり後寛保初
の室家一族をみ思ひ住しといふ今も當ふ本堂の下ふり乃
一類乃塚あり九町坂の谷と隔る南の方といふへの性還うと勅使
といひ道より來樂しをいおんは坂の登り宗天満宮鎮坐候ま
され孤知所路天神といふく今ハ路埋も峠原より通る者掃き
久多瀧を遠く真ふりて飛泉板石といふ所田の上人れ一の行場
今もせりといひ此跡より幻現しをいふ人の中たは城丹波の園塚を
當寺より半里をくり小ふあり都ては地の名産ハ別所大布施より
出て常小心中と棲り農業少く樵多くして所々小炭電板化つとく
煙絶とて女ハ炭薪板首小戴と牛馬ふはけて鞍馬の市小運入あるを

本の枚村枚村は石

花瀬峠

花瀬峠 鞍馬乃小ありは向ハ唐櫃山といふ大巖あり高サハ五丈餘又
寄生樹あり至つて大木ありて懸あり又松乃株一本ありて千巖秀と懸
小立せぬとて板石本橋といふは所ふあり乃糸懸板ありて千巖秀と懸
糸懸板といふ

車坂

車坂 上加茂より乾の方十四五町ありは坂と車坂といふはむり惟喬親王
車坂は所ハ氣掛といふと

満樹山

満樹山 車坂の半里登る半半里
故ふは名ありといふ

雲畑

雲畑 時ハ一里餘ふあり是より小の方村里乃惣名ハ畑中塚河 中畑 生谷
奥畑等ハ此ハ某王菩薩出立しといふ諸の茶葉製し之のゆく見下より登る

牛若丸宅

牛若丸宅 中塚河の東ありて鞍馬へ懸る中の中向あり由縁ハ牛若丸は所ハ
中塚河の東ありて鞍馬へ懸る中の中向あり由縁ハ牛若丸は所ハ

惟喬般若

惟喬般若 中塚河の東ありて鞍馬へ懸る中の中向あり由縁ハ牛若丸は所ハ
中塚河の東ありて鞍馬へ懸る中の中向あり由縁ハ牛若丸は所ハ

雌鳥社

雌鳥社 出谷村の山ありて繁木未考いふハ惟喬親王田獵しをハ時龍愛の
出谷村の山ありて繁木未考いふハ惟喬親王田獵しをハ時龍愛の

岩屋一鳥居

岩屋一鳥居 出谷村乃小ありて往還乃中ハ鑄て小野道館ハ其ハ中ハ通るあり
出谷村乃小ありて往還乃中ハ鑄て小野道館ハ其ハ中ハ通るあり

岩屋山金峯寺 出谷村乃小あり倣陽より 真言宗ありて樓門了金剛

力士坂安に額(山)岩屋と書して 後奈良院乃震筆なり本堂

崖造りありて本尊不動明王 弘法大師の化之脇士毘沙門地

藏尊坂安並に又脇壇あり弘法大師の像あり大日堂を本堂乃

西ありて別大日如来役行者坂安に

折當ふ久代天神醫道乃祖神藥王薩埵と化して出現し乃靈

場あり其後 孝徳天皇の清宇白雉元年乃役優婆塞と多々を倣

道坂踏つけけしふ登り敷月禪定坂修し藥師如来の靈告とゆ

當ふ坂用基に又厥后淳和天皇の清宇天皇六年弘法大師いふ

小登りあり神童出現して曰ふ者ときに侍奉久し早く之空乃

松法坂修し王城と鎮護し且一切荒生乃法預と成就し病惱坂

扶助しありと教へり之當ふ乃守護神ありと飛龍と化し忽龐

入給ふ星ありて大師飛龍權現と崇め龐のふ勧誘しありとあり

小松谷正林寺の大佛殿の東小あり宗首の浄土用基に惠空上人あり

本堂の殿舎造りありて九條殿ありの所寄附と我壇上より高光大師

の儀坂安並に南の方に阿彌陀堂あり樓門の額に九條園白尚實公の

所等之明和年中に之所之此地にあり月輪禪定眞實公の所所之

小松殿と云法然上人の殿の所堂にあり梅ありと黒谷傳記あり

子承あり小松のそと坂すまらばて女房番に連とて中納言 隆空上人

け所より西人家の小れ方に谷ありをを小松谷と云小松内大臣を盛云

のふ在りて燈籠堂の地あり 委の盛衰記あり

三嶋明神のや一海馬町小例あり當所の氏神ありて唐子一一代

體を禁まといふあり

継信忠信の石塔修り馬町小例氏家のう一海あり石れ大塔二基修

曰永仁三年二月二十日願主法西とあり一基の銘あり

阿弥陀堂の豊園の後れふり慶長三年豊后赤松と云い者ふ并修り

清閑寺



清閑寺は小松谷の良所にて佐伯公行れ建立さるり奉尊八千五百親善

の立像崇神の御化あり

高倉院の陵當寺小あり

治承五年四月十四日新院爲清閑寺さうく標とす

新古 乃小見し一志の清を致さるり人の御さぬ標とすを悲た 法や池悪

小督れ墓の後のたのびくたあり高倉院の御影愛を崇めり標町

中納言の女あり 委のま家物信盛養元あり

歌中山を清閑寺の小音羽山の回をり

わが清閑寺の真燕僧教とて人信りあるたれ門外よとすそそ切
 り人をつんおるらおらう 髪をさらせとてた女はさかかりゆくとんそ忽ち
 愛公ゆりもれをいひひくつと後きて清閑への乃は何れぞと問はれ女
 乃のいふまより人のそらるてははの乃とていふをまの金

といはれて後とて人失り女化人そゆりあ其の清閑とておれ申す

音羽山清水寺

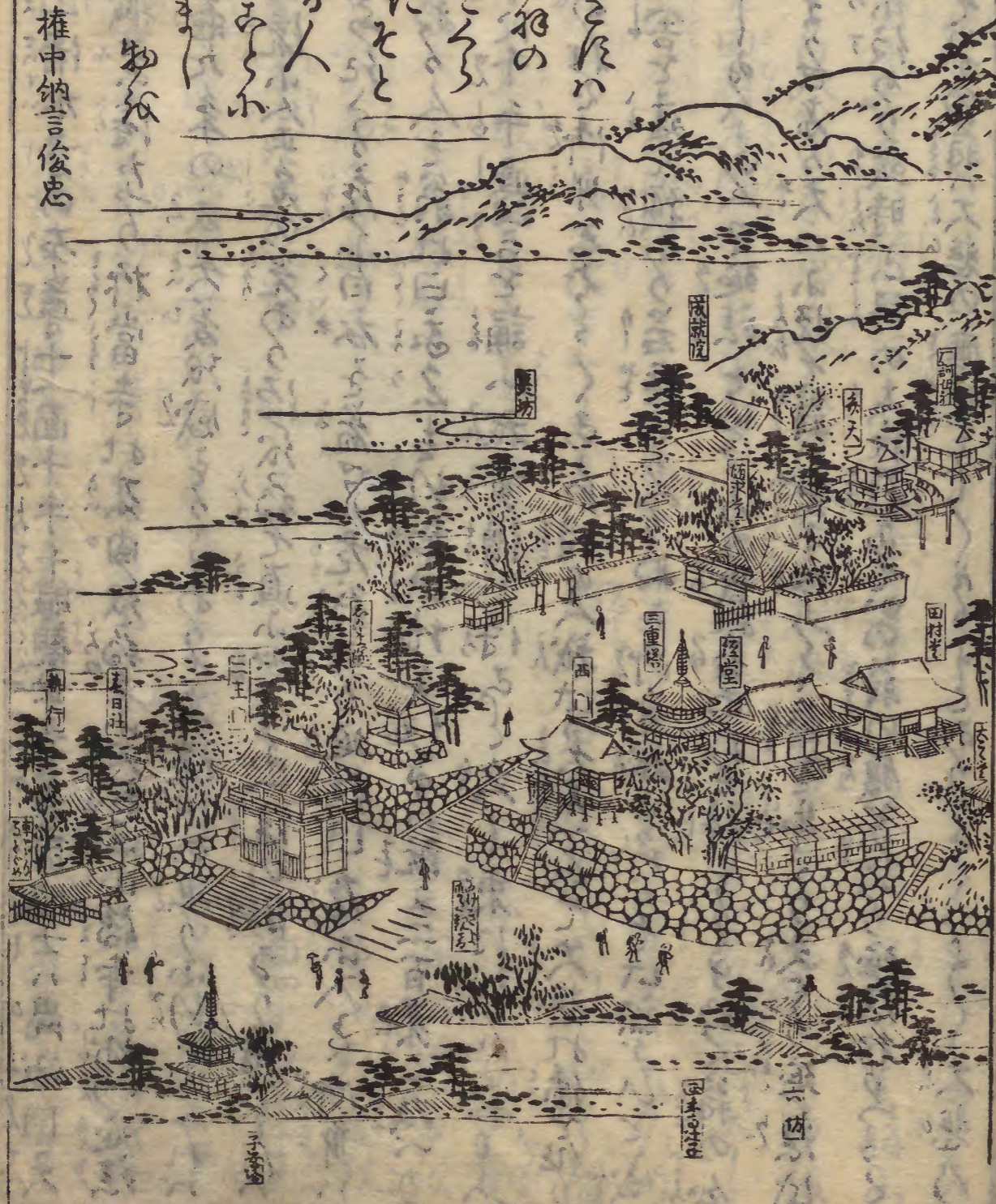


南無院

新勅撰

今よこたの
まねの
ささ
いかに
えん人
あま
あま

権中納言俊忠



音羽山清水寺の本尊十一面千手千眼觀世音菩薩脇士の毘沙門天
地藏菩薩なり押當寺に來由縁あり大和国小徳寺に河内延徳
宝龜九年の夏夏夜感得るありて本津川の辺り小川に流るる
一流の流小金色の光あり河原を直小堂なり一流の流るる傍と
牙ふたりの席小白衣を着て老翁あり延徳は席ふ入て御身の
いりぬる人ど翁れ曰家名をい敷地は住する院は二百歳に及べり
常に千手真言と誦へ我貴僧と侍と久し東にゆくと仰り入
志ありて御身を志とくあらに信ゆ我は冥本とて大悲れ像を彫り
精舎と建ん願あり若くく入りぬを御身我より入りては祿がひと成
就しぬるといふ延徳と此よりと爰に告われを諫とるるぬく公孫の心
よまうせあり大い小恨を公孫の東小向うく菴を出りまをり延徳は
所小信り或時小科の末に菴ふての翁の履と捨り延徳おりつく
さてこの翁の大悲の應現ましくなりとありとくいよく大悲乃

尊像を安んせんと祿ひあるりたりとて奉月と送り延
延暦十七年に將軍坂上回村九香婦のうめ小麻と稱して音羽山
ふりけ入りの茶菴ふむり延徳回村ぬをきて翁の志ありて
告り回村九香仰の志ありて屬延徳の相好ぬるに神仏に
是即大士の化現するんと信をりま一家に婦と妻女ふりたり
妻れ曰この病を治せんとして多く殺生ぬるに罪ありてぬり
屋一具敷ふはりせと大悲れ尊像安んせりまといのこり乃利
益ありてと夫婦心をありてを親善なるに建て延徳は寄附せんと
約と再び敷より授り一靈本心にて親善に像ぬるに延徳
其夜着中に十一人の僧來り大悲の像ぬる長八十一面四臂千手
觀音之造り終つて十一人の工僧行方と知り後着て入るに祿と尊
容現しぬる目前ふあり當寺に奉る是之まを佛殿と建んてふに地
嶮岨ありて平地もるりけといくと公憂りて其夜多くは麻きりて

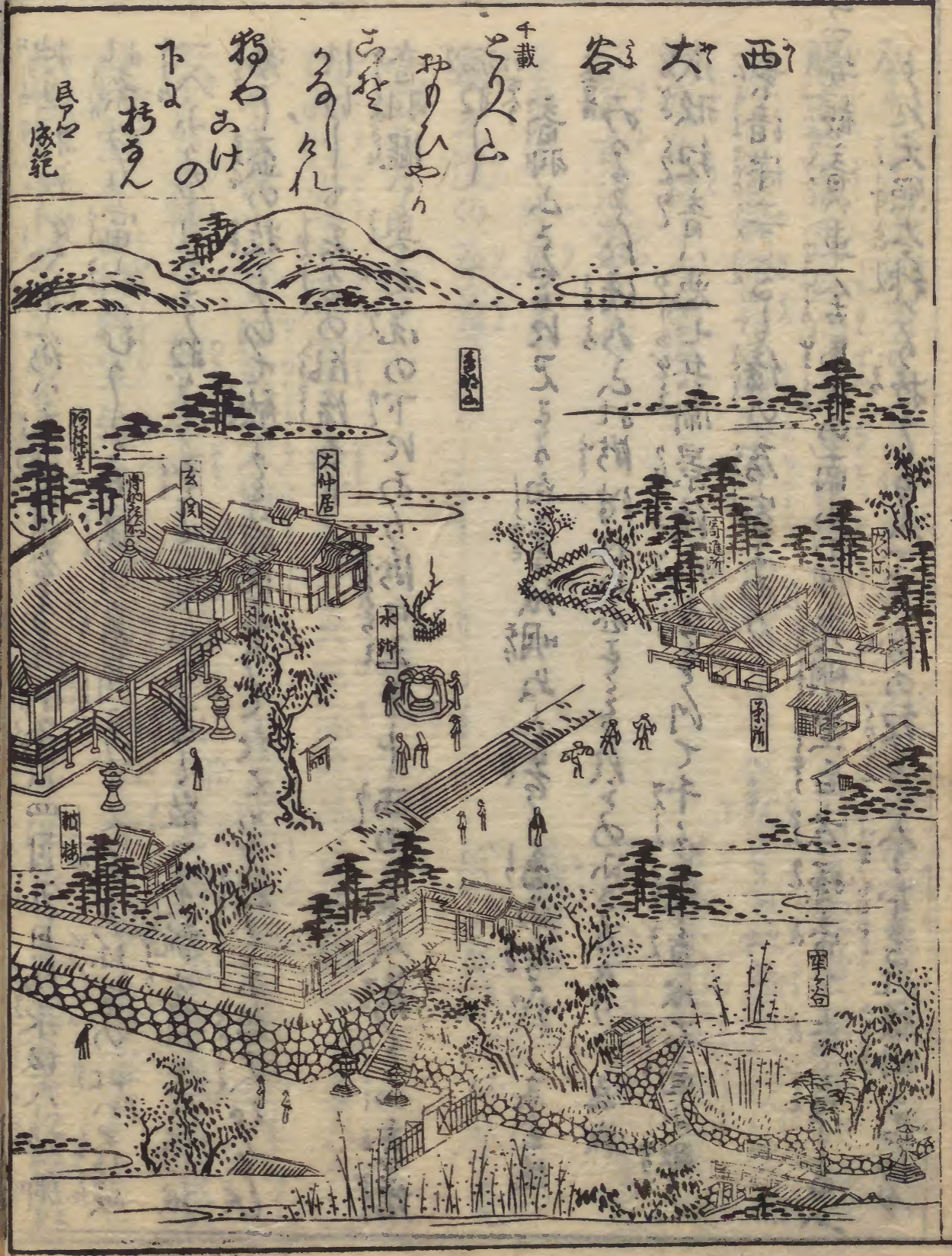
鹿嶋の
をとりてまじふるやうに佛殿と造りて大慈大悲安楽なるなり
脇土地藏毘沙門天の延法法師に化有り田村九延暦二十一年に詔派
うけて東夷征討の時此奉る小形ありて観世音地藏毘沙門天彼
我場小現しゆしてさうく延治の年日たは来小田村九を改定府
此宜旨依崇りて堂塔と建立し勅願所とす又又日二年紫雲殿
をのりて伽藍とす観音寺依改て清水寺と號せり
奥之院の本尊を千手観音の立像ありは地延法法師草菴
の初よりとぞ

阿弥陀堂を龍山寺と號と奉るは阿弥陀佛の坐像依安重文治
四年五月十五日法然上人龍山寺を不断常行念佛を因縁しゆ
今小返轉る朝倉堂に城前の園司朝倉弾正貞景是と建立
田村堂に田村將軍鈴鹿権現行敷延法等の像を安置
泉水の中間の西小あり靈泉ありて地中より涌出する寒暑に絶

地を控現れや一海は丈己貴命有り例系は四月九日清水坂八坂御
れ系有り當山いむりて梅の名所ありて妻も流生の比は
一入ふりりてさねがうとてんを書と散るを瓢客れさる後
初一盃の数をしと飲を詩にけりてたをめるねく小短尺むとび
はけしもま名の風流あり

音羽瀧は奥之院の下にあり流口之をト西のうへ人あつて西寺増
減あり
音羽ふらふらにえとる白書依明ぬと告る鳥のあひ
みまらに清みふはけは女心をとまらとの小ざりたり 為威
瓜形観音は悪七兵衛景清爪をとりて千手観音依石面小彫之
景清守奉るも傍の房室あり

子安観音は車舎馬止の南小あり光明皇后孝懐帝と奉る産しゆ
とて天照太神より授りぬ一才八歩の観音今う本寺に後因よあむ



小野道風社

小野道風社 小野庄坂村あり正一位武大明神と稱す土人生土神
 坂村に於て當宮一社あり此社に於て日本三跡の一人なり
 日本書紀曰大内襲藤原門の額及滋之平五月七日日本書紀曰
 道風書と云ふ云云康保元年小卒と年七十一

工部芳聲大靈祠此屹然臨池千載業誰復繼斯賢
 龍公美 平信好

寥々杉阪傍樹鬱明王堂不見塵寰色梵音風外長
 芥 嗽即神蘓

香水藏山頂炎旱曾不枯人言傷喝客
 芥 嗽即神蘓

道風千載久書比晉人賢欲吊墨池古先臨澗漱泉
 芥 嗽即神蘓

一橋架峽岸臨眺自清奇恰擬半輪月思君在峨眉
 高道昂

淺深不可量朝洗僊人掌木末含菱荷翠色看來長
 大江資衡

風流野長公墨妙孰爭雄欲見威神赫原泉滾々通
 五邨綬

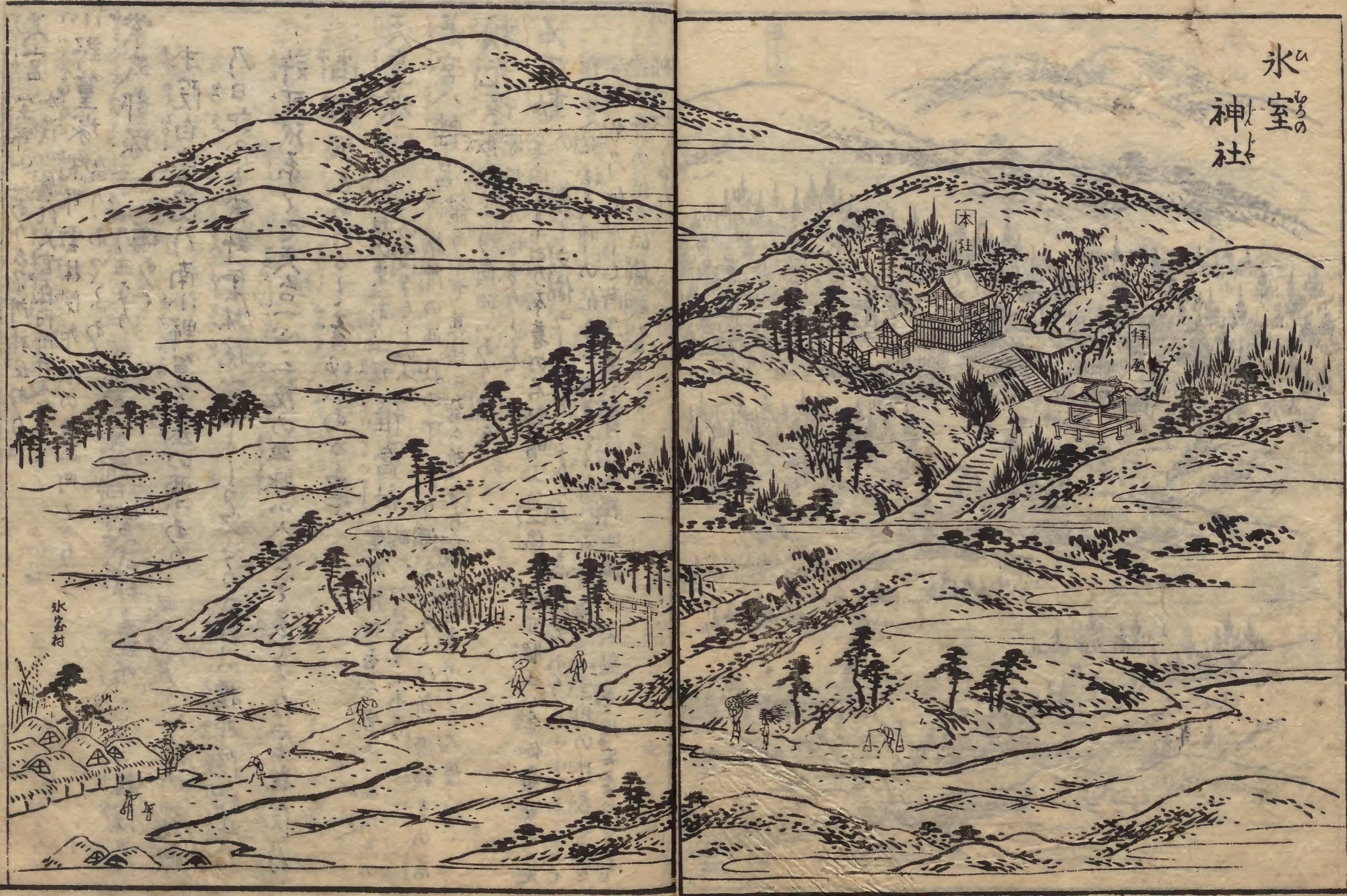
諸山相伯仲季子最蒼然誰逐延陵跡遜家耕石田
 和香水碑銘

和香水碑銘

千歲雖邈厥澤綿綿碎公斯挹式肅式顯迄用不竭萬億秊
 明和庚寅孟夏望井澤善興篆大江資衡撰近藤正信書



氷室神社



氷室村

大宮 紫野の属に大宮村は所社あり

小野篁塚 紫野の属に小野村あり

紫式部塚 上ノ橋あり 花鳥餘情曰く紫式部墓所を雲林院乃

末院白毫院乃南小野篁の墓の西あり 岷江入楚曰 宇治の寶藏

乃日記云と紫野雲林院云々より式部極那院僧正乃

許可派系して天台一心之親の血脉入ると云てより雲林院乃

幽閑派云々より素ゆ人のあり

天皇塚 雲林院村の東あり 惟喬社 雲林院の南今宮清藤所云の

若宮八幡宮 清藤所の西麓の中あり 傳云く此所源頼光の居

頼光塚 源頼光塚ありと云 船岡乃南西あり傳云

石不動 金剛寺の西あり 不動明王の立像六尺二寸脇土金伽羅勢多迦

依り足弘法大師の化あり 安堂と云る所は岩窟あり 又堂内の地蔵を
安阿弥乃化あり 南乃壇に寶冠の釋迦佛又不動尊安堂は足智
證大師の化といは 佛頭髮あり

淨藏貴所塔 金剛寺の南あり 不動石 金剛寺の鏡石より一町あり

六清明神社 金剛寺の南あり 皇女乃良林の中あり 系社

十禪師社 龍安寺の南あり 西あり 土人

仁和寺濟信法親王塔 右のヤシ路小二町あり

宇多野 仁和寺の南あり 大内山 仁和寺の南あり

光孝天皇陵 仁和寺の南あり 西一町あり 車塚 此塚の南二町あり 芳塚

福王神社 仁和寺の西あり 皇太后の御廟あり 皇太后の御廟あり

宅摩塚 高野道の西あり 宅摩明惠上人の御廟あり 宅摩明惠上人の御廟あり

の二神常の擁護と云ふ あり 宅摩明惠上人の御廟あり 宅摩明惠上人の御廟あり
春日住吉の神あり あり 宅摩明惠上人の御廟あり 宅摩明惠上人の御廟あり
執事神あり あり 宅摩明惠上人の御廟あり 宅摩明惠上人の御廟あり
おかしき馬あり あり 宅摩明惠上人の御廟あり 宅摩明惠上人の御廟あり
小協板あり あり 宅摩明惠上人の御廟あり 宅摩明惠上人の御廟あり

清瀧河 梅尾高の寺門あり 橋下のあり 水原下小野より出て此地と云

と愛宕乃藤板歴て大井川入也

浴室花見

新古今

花の香

衣の匂

成り

本の下

風の

まじ

貴之



日

めけ

の

茶の

半時庵

淡



地藏院

紙屋川乃西あり... 洛陽觀音めぐりの具一ありて

長名椿

當寺の庭中ふいふに椿の樹ありて花の盛に珍瓏なるをとありて

北野御旅所旧跡

下立賣紙屋川の西あり小祠あり管神坂ありは所を修た

白樂天杜

中後所の西有橋次宅地... 橋次宅地

花園

妙心寺乃地とて花園社と妙心寺の西一町ありあり

協地藏

下立賣乃西法金剛院の聖あり本尊地藏菩薩坐像八尺ありて

極樂橋

佛聖堂と素違の縣相と見ゆゆりありあり

安居

地蔵堂乃卯辰の向あり民家あり村の名に於てはむりへ八條女院の

龍翔寺旧跡

安居村あり後宇多院塔は所ありあり

常盤里



山直指庵



細谷

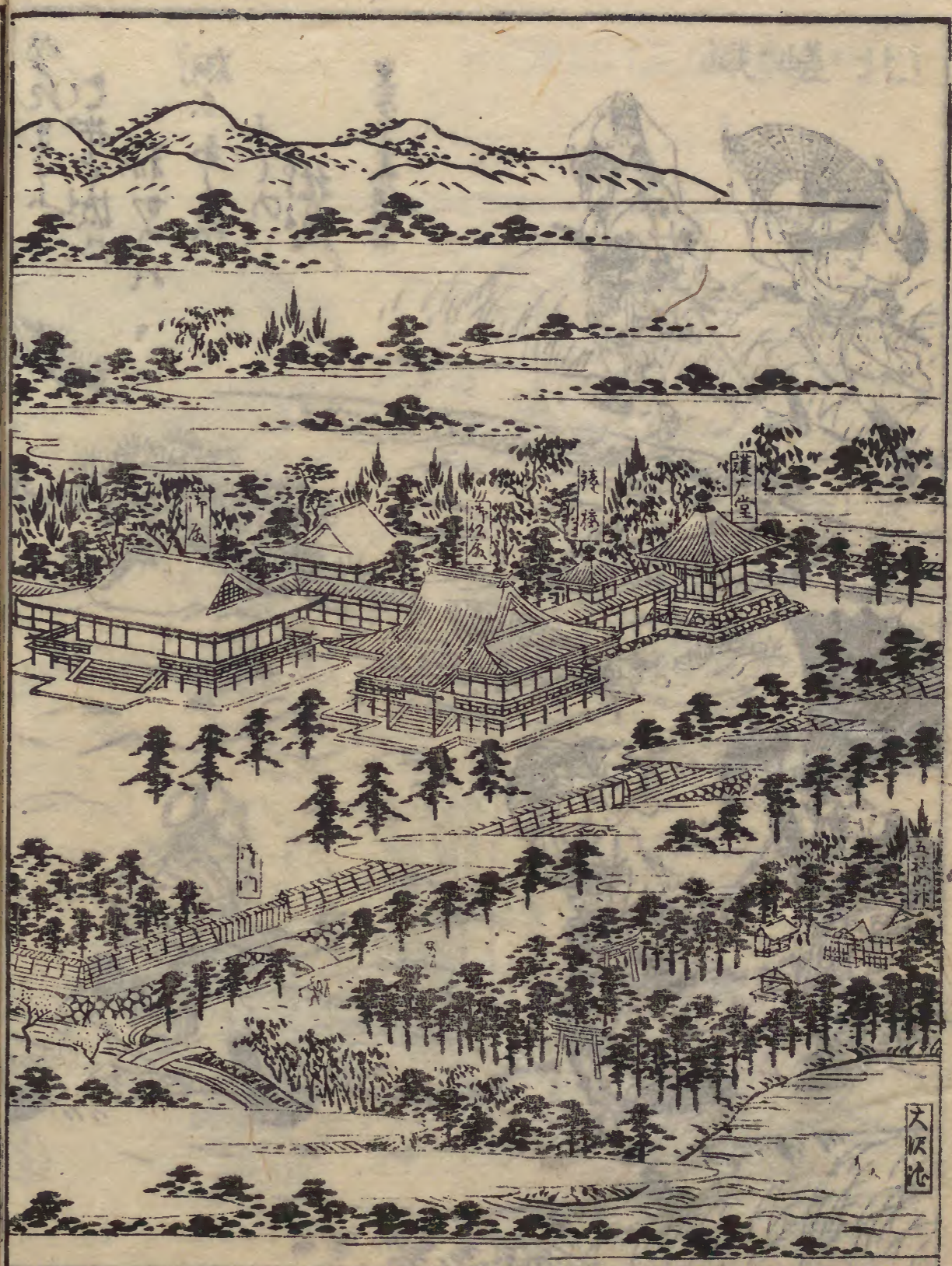




ゆゑまゝ
き井と後
初めり
翔ふあゝ
かしの
枯風
白手后を全儀成



大覚寺



水尾 愛宕山一坊居よりたの

清和天皇社 幸延暦四年九月庚子水雄園行幸して遊獵しる人と云

水尾陵 日所あり清和天皇乃沖骨を藏奉り所あり

三代實錄曰 慶四年十二月癸未申の刻天上天皇圓覺寺崩し後春秋

二十一 天皇崩儀 甚美端儼ゆて神乃如し性寛明仁恕温和にして

好書傳を讀思ひを釋教の質に鷹犬漁獵の娛嘗て意をなすべから

水尾山寺 同所あり今荒廢して後存存本尊觀世音阿基詳るに當寺

又貞觀寺 水尾等乃二寺小使被遣はし功德被修り圓覺貞觀の兩寺

小巖綿各四百一十一屯水尾寺ハ二百一十一屯

福田寺 愛宕山小坂あり阿基詳るに本尊阿弥陀佛坐像二尺五寸

後龜山院陵 當寺乃内西の隅あり五藏石塔被建す左右二塔あり詳

南朝の帝あり右朝文中二年即位に其後若原あり後醍醐天皇の皇子なり

二十一年四月十二日崩し後入

仙翁寺 愛宕一鳥居乃仙翁町の山小あり上古は地仙翁人位し

定家卿塚 小巖平山乃南島乃中ありは所小塚ありの由縁詳るに

生六道 清涼寺乃成教あり本尊地藏菩薩立像二尺小野篁此能

中院觀音 定家卿の沖安持佛之は本近親相和さるる當町村候あり

客老乃その人具先役より一乃相被濟るは是むうり乃創る

漢字の文章一通あり即二尊院乃方丈一露頭と云ふ當町小むり

安重とる所乃世音乃由来ありて定家卿乃沖持尊といふ明白あり

本鏡被傳し高徳安重とる所乃世音乃由来ありて定家卿乃沖持尊といふ明白あり

安重とる所乃世音乃由来ありて定家卿乃沖持尊といふ明白あり

西行法師菴跡 二尊院中門のむり運善院乃

辨財天社 日所龍女此の所あり龍女と勸請とる

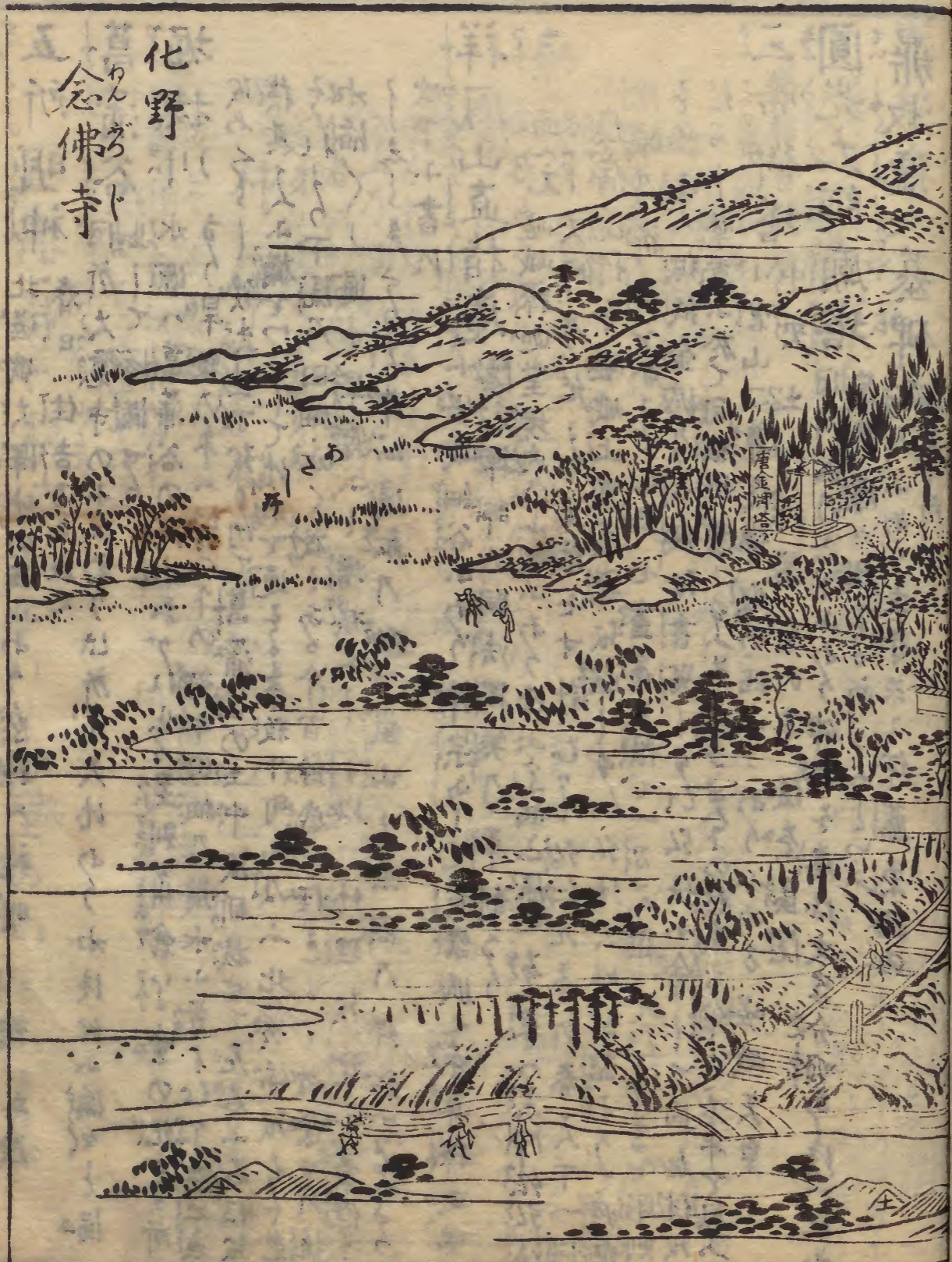
山集 西行

西行

水尾村
清和天皇陵
四所権現
圓覚寺



化野
念佛寺



卷之九

五所明神

北邊の澤庵の西あり祭神ハ神明ハ心懺加茂

菖蒲谷

水原の菖蒲谷の地水ふぐれ是則角倉守意の地なる所

堀抜川

水原の堀抜川の地水ふぐれ是則角倉守意の地なる所

堀抜川の地水原の菖蒲谷の地水ふぐれ是則角倉守意の地なる所

祥鳳山直指庵

嵯峨釋迦堂境内の山あり法宗の草創なり

療病院

嵯峨釋迦堂境内の山あり法宗の草創なり

三帝御塔

嵯峨釋迦堂境内の山あり法宗の草創なり

圓光大師廟塔

嵯峨釋迦堂境内の山あり法宗の草創なり

鼎淑孺人墓碑

嵯峨釋迦堂境内の山あり法宗の草創なり

落柿舎

小倉山下の社なり

落柿舎記曰

夫の帝のわくこふしと終るむと屋敷りは人と奉りいとこのあり

柿ぬ

一本と素ハちうたあ

近奉去來の支様磁土井上重厚舊蹟小

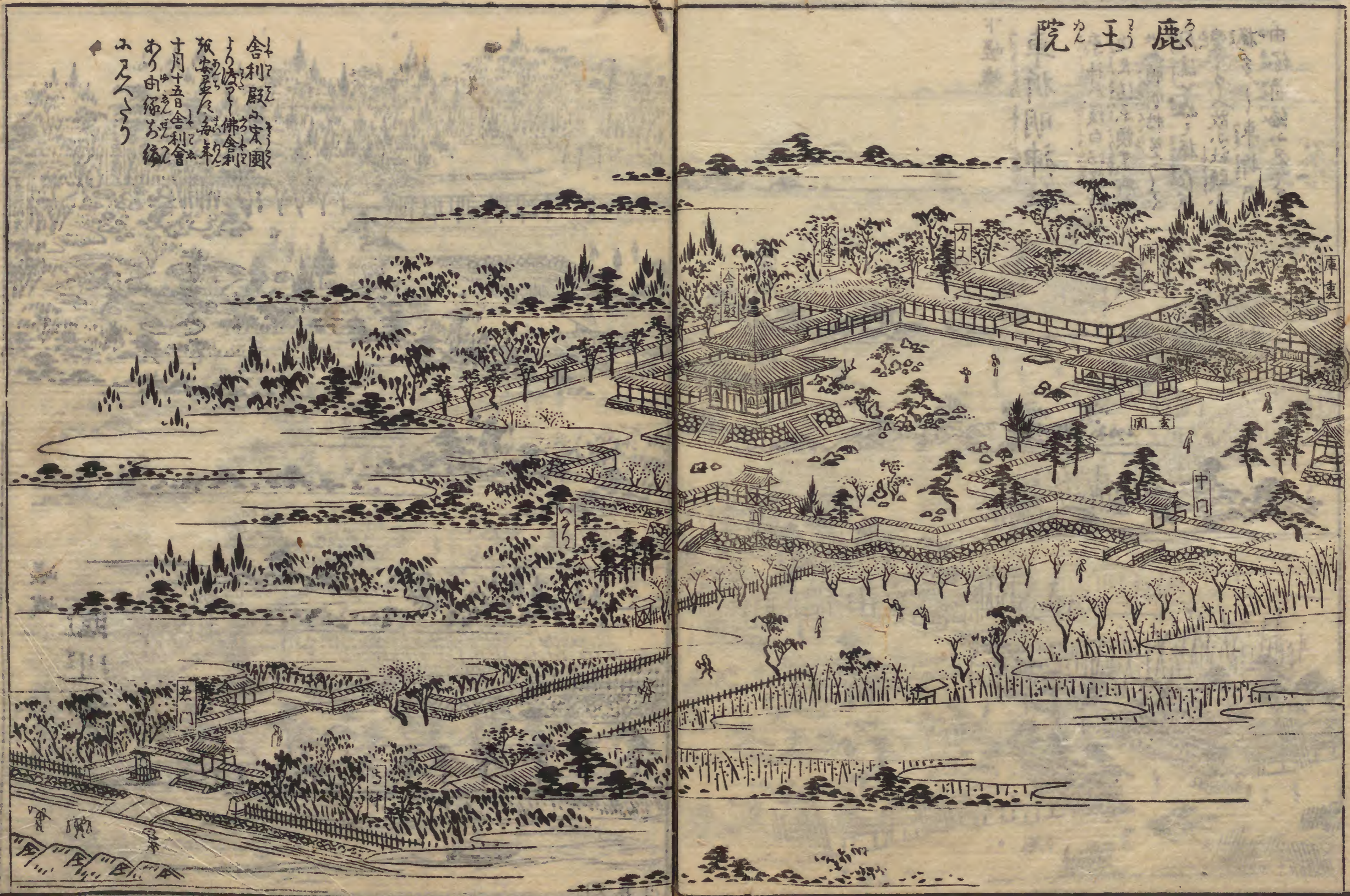
五月雨

紙まぐれ一壁のあと

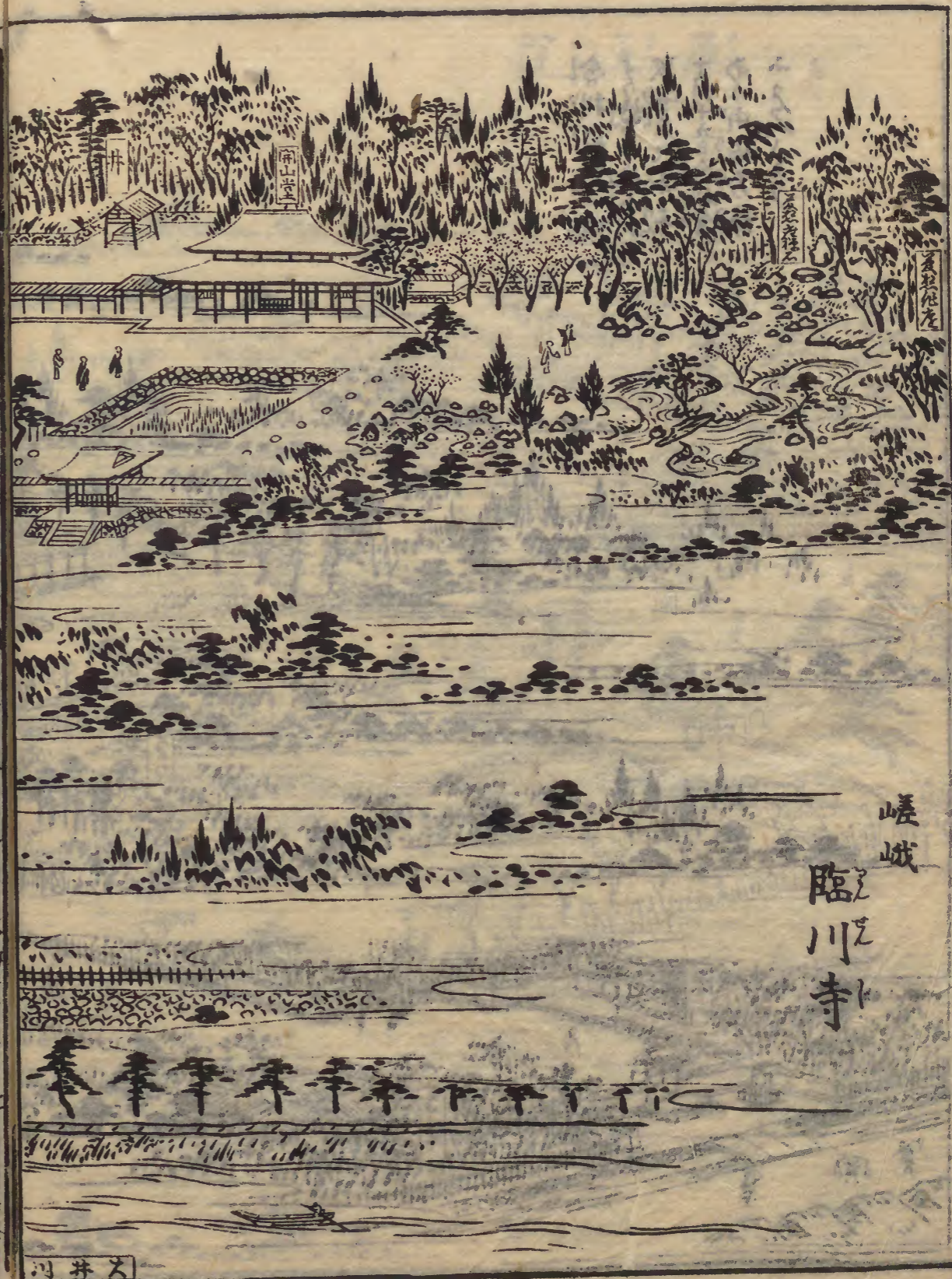
下嵯峨
 車折明神社
 系神ハ後白河院乃
 近長法系頼業卿之
 此人聰明精銳之
 風流と好む様花張
 愛しし故小社頭小
 橋多し車折乃
 由縁前編小足へ方



鹿王院



舎利殿
十月十五日舎利會
あり由縁あり
みえん



嵯峨
臨川寺

大井

嵯峨野

三代實錄曰之慶六年二月廿日己未...
嵯峨野に舊田獵を制せしめ...
嵯峨野に舊田獵を制せしめ...
嵯峨野に舊田獵を制せしめ...

新古今

さうのさう代乃る...
さうのさう代乃る...

定家

新古今

夕香の林のさう...
夕香の林のさう...

前左政宣
忠定

玉吟

ひろく...
ひろく...

家隆

兼明親王

今野乃宮の南...
今野乃宮の南...
今野乃宮の南...
今野乃宮の南...

龜尾瀧

龜尾瀧...
龜尾瀧...
龜尾瀧...
龜尾瀧...

増鏡云

車の推大納言實雄卿...
車の推大納言實雄卿...
車の推大納言實雄卿...
車の推大納言實雄卿...

續古今集

龜尾乃仙洞...
龜尾乃仙洞...
龜尾乃仙洞...
龜尾乃仙洞...

徒然草云...
徒然草云...
徒然草云...
徒然草云...

左上天皇

龜尾院...
龜尾院...
龜尾院...
龜尾院...



大堰川
漢釣縣

一口小

中七

とら

粘

粘
粘
粘

江戸

一鉄

嵯峨
法輪寺



西行橋
南のり

新古今

ふらひん
るらん
おらん
おらん
おらん



大悲閣

嵐山の西に彫橋より十町をりあり本尊ハ千手観音恵心
僧都乃化して位儼之入をり之の脇壇ハ八角倉了以の
儀安坐に法華のく夜と着し七十有餘此相形手ノ石割芥と
持て石上ニ繩衣圓坐し片膝と立て坐をけ人々井河の巖石と多
破碑き舟に困より舟衣通りむ足二列乃益うてむうと今ふ
了以碑石 閣のおた、側あり序銘林道春撰ころ所あり

吉田了以碑銘

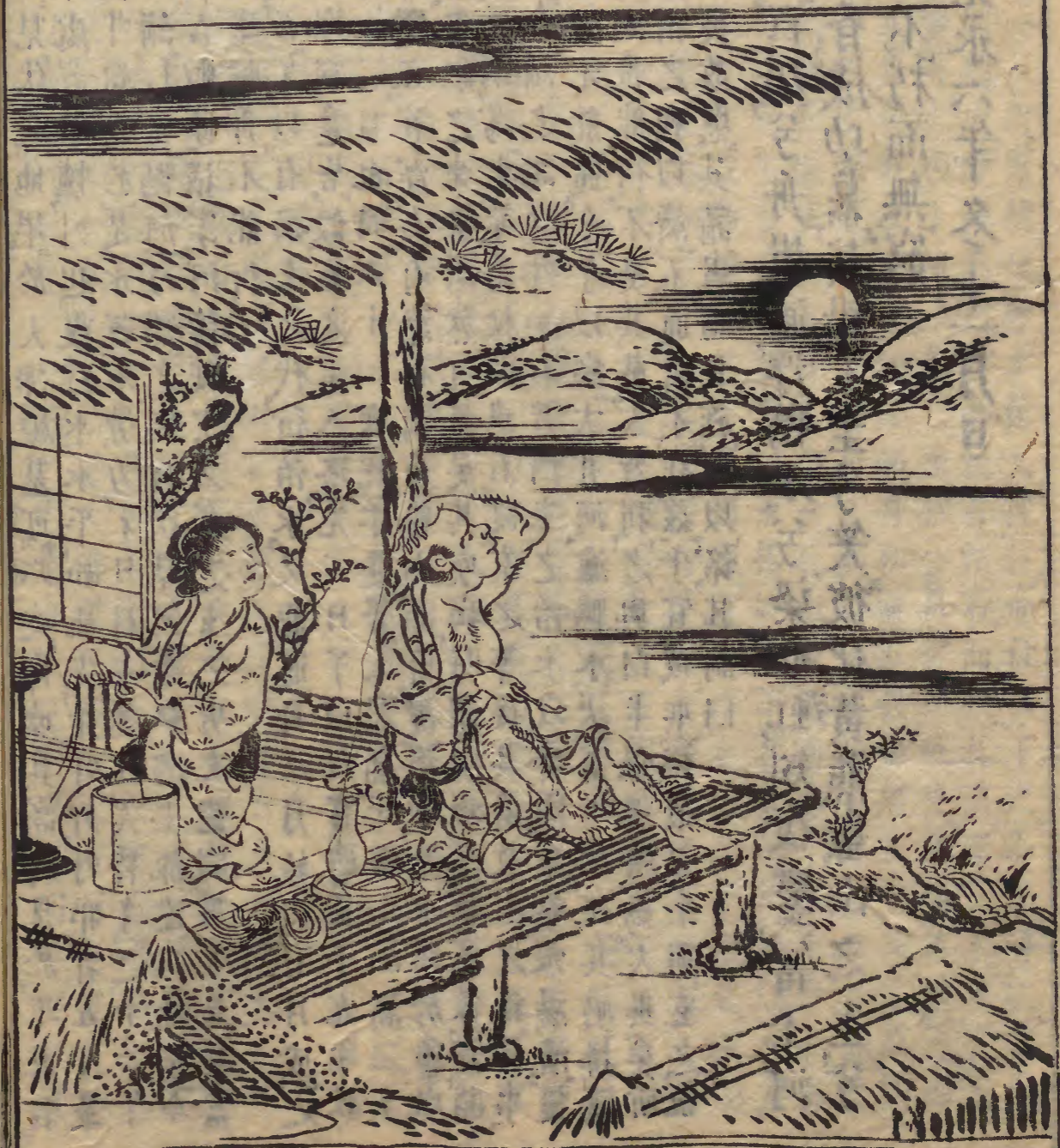
古云舟楫之利以濟不通嘗聞其語矣今有其人也了以更其人
歟了以姓源氏其先佐佐木支族彌吉田者宇多帝之後也云爾
世住江州五代祖德春來城州嵯峨因家焉其所居乃角倉地也
洛四隅各有官舍在西曰角藏語在沙門石臺窓天龍寺圖記中
德春子宗林宗林子宗忠皆潤屋也而仕室町將軍家宗忠子宗
桂難髮遊天龍蘭若嘗學醫術一旦從僧良策彦適濱渤赴大明
明人或稱宗桂號意菴蓋取諸醫者意也之義還干本邦其業益
進娶中村氏以天文二十三年甲寅某月某日生了以諱光好小
字與七後改名了以性嗜工役嘗雖志莖仕而未肯事信長秀吉
矣及干
前大相國源君之治世也而初出奉拜謁焉慶長九年甲辰了以
住作州和計河見舩船以為凡百川皆可以通船乃歸嵯峨沂大
井川至丹波保津見其路自謂雖多湍石而可行舟翌年乙巳遣
其子玄之干東武以請之台命謂自古所未通舟今欲通聞是
二州之幸也宜早為之丙午春三月了以初浚大井河其所有大
石以轆轤索牽之石在水中構浮樓以鐵棒銳頭長三尺周三尺

柄長一丈許繫繩使數十餘人挽扛而徑投下之石悉碎散石出
水面則烈火燒碎焉河廣而淺者帖石而狹其河深其水又所有
瀑者鑿其上與下流準平之速秋八月後以成先是編筏繞流而
已於是自丹波世喜邑到嵯峨舟初通五穀鹽鐵材石等多載漕
民得其利因造宅河邊居焉玄之嗣焉子嚴昭受傳之玄之能書
且問儒風於惺窩先生有年矣一旦招先生遊遊于河上奇石激
湍甚多請先生多改舊號其白浪揚如散花者號浪花隈舊稱其
齊沮環石者號觀瀾盤陀有石相踞可二十丈猿抱子飛起其間
者號叫猿峽嵯峨東有山巖高峻有捷鶴之危巢者號鷹巢石壁
斗絕猶如萬卷堆者號羣書巖巖巖此處有石似門廣五丈高百
餘尺者號石門關有湍急流舩行如飛號鳥舩灘巖巖隣於水
尾世傳清和帝嘗來觀魚于此焉岸有山岩高可五十丈其下
水平衡如水載山取山下出泉蒙之義號曰蒙山皆有倭歌在其
家集惺窩所遊觀止此焉復各石方三丈許其面如鏡聳於水崖
號鏡石又有浮田神祠世傳遠古之世丹波國皆湖也其水赤故
曰丹波大山咋神穿浮田決其湖於是丹波水枯為土乃建祠而
祭之以鋤為神之主此神即是松尾大神也下此則愛宕龜山在
左嵐山柱右其勝區不可枚數十二年春了以奉
鈞命通舩於富上川自駿州岩淵挽舩到甲府山峽洞民未嘗見
有舩皆驚曰非魚而走水怖哉惟哉與胡人不知舩何以異哉此
川最峻甚於嵯峨然漕舩通行州民大悅十三年又命了以試
自信州諏訪到遠州掛塚可通舩天龍河否了以雖即漕溢然無
所用故至今舩少方是之時營大佛殿于洛東大木巨材甚勞挽
牽了以請循河而運之乃聽之於是自伏見里浮之河派而挈焉

了以見伏見地卑於大佛殿基可六丈即壞其高為是於卑處若
河曲處置轆轤引起復浮水水平如地先是呼許呼邪者五丁憂
之萬牛難之於是水運不勞力不日材木悉達人皆奇之十六年
了以請行舩鳴河乃聽之因自伏見河漕舩迎上流達二條至今
有數百艘遂攝家河傍使玄之屈之玄之男玄德嗣焉十九年富
士河壅峻舩不能行
鈞命了以有病玄之代行治水又能通舩三月始役七月成之
聞了以病急告假玄之未入洛先二日了以歿實慶長十九年秋
七月十二日也時六十一歲此年夏營大悲閣于嵐山山高二十
丈計壁立谷深右有瀑布前有龜山而直視洛中河水流於龜嵐
之際舩舩之來去居然可見矣其疾病時謂曰須作我肖像置閣
側捲巨綱為坐犁為杖而建石誌玄之等從其遺教玄之錄其事
以寄余請之記件件如右昔白圭之治水以隣國為壑張湯漕褒
粹嶮巖不能通今了以疏大井河濬鴨水決富十川凡其所排通
醜開則舩能行不負其載人皆利之與白圭張湯所為大異矣所
謂舩楫之利以濟不通者不在茲乎宜哉垂裕後昆余與玄之執
交久矣故應其請書焉且旌之以銘其詞曰

排巨川兮舩楫通浮鴨水兮梁如虹矧復鑿富士河
兮各成功慕其錫玄圭兮笑彼化黃熊嵐山之上兮
名不朽而無窮
寬永六年冬十一月日

雲
く
人
休
月
己
く
く



野依 野倉宮の子孫居しつゝ松尾の地領ありつゝ由平家おぼろふなり
別雷峯 松尾神社乃山上なりは所小巖あり
 松尾神社降臨の所なり

最福寺 松尾の南松室村ありつゝ浄土宗なりて奉尊阿弥陀佛を安
 廢ふ及しと再興して搦し建所なり延暦上人の係高寺なり
 安んじ坐像三尺餘ありて上人在世の時佛工の命しとくみんとく
 所なり

峯堂 舊跡へ葉室下山田乃西ふ上あり
 十二の樓閣五重なり塔之間一面乃輪藏あり芝蔭院宇正慶元年
 四月九日千種頭中將の軍火に罹り灰燼となり其後小堂あり今下田の
 南面の上方二町ありの所瓦石銅鉄の具土中より出たり今下田の
 堂乃奉尊茶師佛の今下田の内の小堂に安んじ奉尊係所なり焼損
 谷堂乃奉尊十一面千手觀音の今下津村に安んじ奉尊

真如寺 葉室乃山上あり治年中再興を齋寺に舊云議良繩朝臣乃
 建立して天台宗なり其地古真如寺といふ初建立乃由縁ハ二代実盛
 此の地より真如院と名づく正慶元年津谷堂と共に焼失なり今葉室大町の
 化尊の聖觀音の尊像ありて齋寺なり

法華山寺と號して
 藤々として四十九院
 宇正慶元年
 今下田の
 今下津村に安んじ奉尊

神代三陵 延喜式曰日向埃山陵天津彦火瓊瓊杵尊 日向高屋山上

陵彦火火出見尊日向吾平山上陵彦波瀲武鸕鷀野田邑陵南原祭之其北域東

已上神代三陵於山城國葛野郡田邑陵南原祭之其北域東

西一町南北一町云云 云云云云の陵今詳す 次文德帝の陵北南二町

又件乃 塚北 乾 二十餘 畝 餘 傍 有 面 小 祠 あり

大梅山長福寺 東梅津 禪宗 ありて 佛殿 乃 本尊 釋迦 佛 脇 土 へ

普賢 文殊 表 門 の 類 へ 長福 寺 と 書 きて 世尊 寺 忠 季 卿 の 筆 佛 殿

の 額 へ 祈 禱 せ ざ ざ 筆 者 詳 不 得 矣 又 月 林 大 幢 國 師 大 元 國 師

入 法 寂 茂 古 林 小 嗣 かの 困 不 得 七 佛 惠 智 鑑 大 師 と 號 せ 足 則 大 元

乃 文 宗 帝 の 勅 號 之 又 普 光 大 幢 國 師 と 号 せ 咸 後 七 年 及 之

後 村 上 院 の 勅 號 あり 又 花 園 院 佛 歸 依 あり 即 帝 乃 佛 塔 所 之

別 傳 院 之 寶 輪 之 號 之 辰 影 の 畫 圖 當 寺 小 あり 上 の 濟 澄 へ 濟 辰 翰 之

予之陋質法印豪信 千時曆應改元無射之候也 汗漬の如く辰影の故爲信卿息圖之所

岡山塔板圓明と号に同所清涼院あり

押當寺の初天台宗ありて真理と云女僧れ建之とれり奉久

く志ては里小梅津左衛門清景といふ者あり月林和尚と尊信

と其時清景當寺板領し忽和尚附與して禪刹と号せり

梅津左衛門塔長福寺の門外也

山之内 乃 條 乃 西 千 本 あり 十 四 五 町 あり 乃 祈 禱 之 所 大 内 裏 北 條 時 長 安

号に今村の名と次則草堂の傳教大師の画像あり又里乃西端に

山王祠あり今山之内南側あり洛陽西六條興正寺乃魚所

徳成寺 山之内街道乃西と云南側あり洛陽西六條興正寺乃魚所

西院 乃 西 千 本 あり 西 六 町 あり 乃 本 名 淳 和 院 拾 葉 抄 曰 攝 葉 后

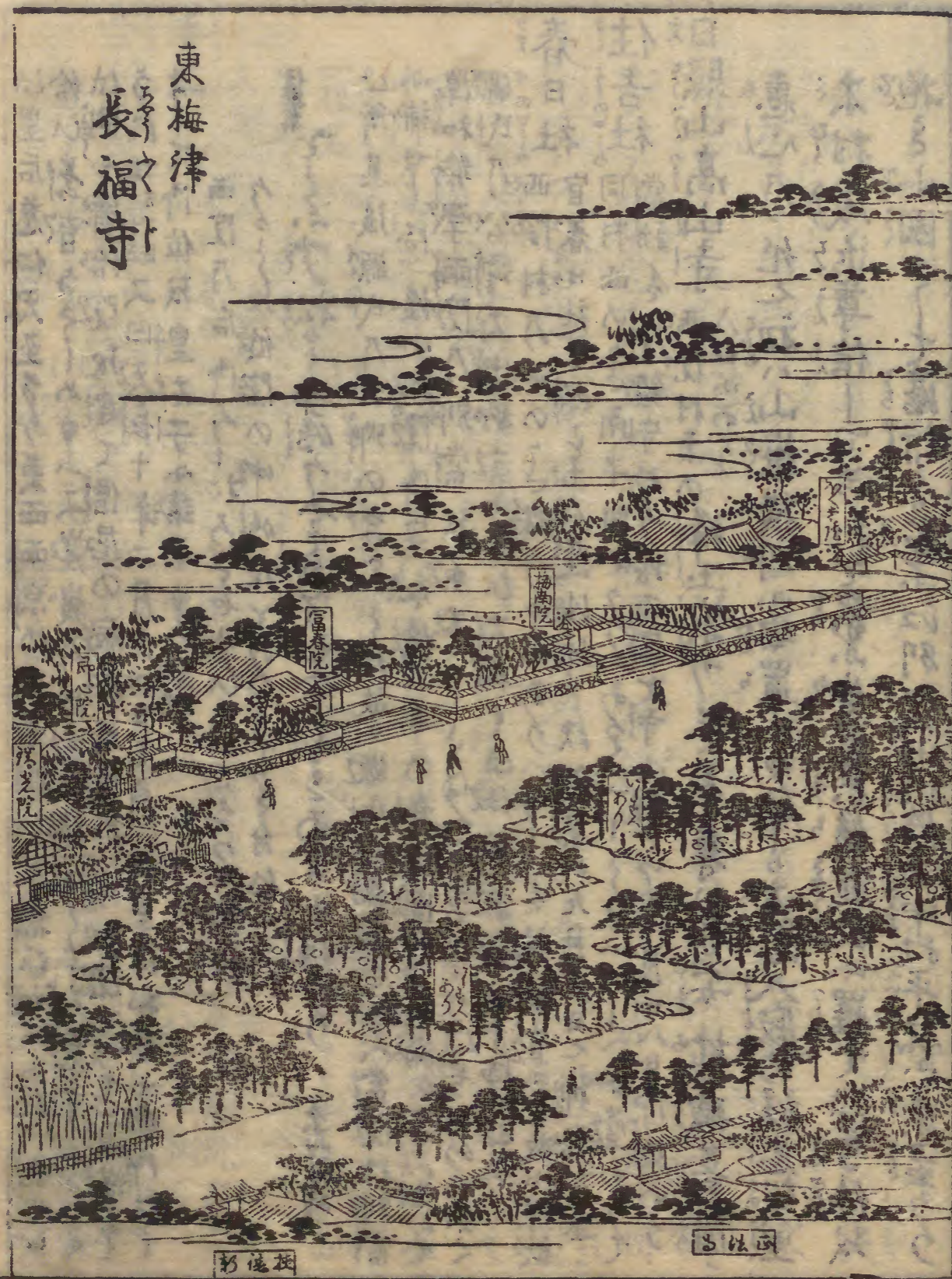
嵯峨天皇乃長仁明天皇と同腹なりを后の姿顔美麗なりと禮度

あり承和七年五月淳和帝崩す皇太子欽成を立す後淳和院あり

居し人貞観二年五月淳和院あり於て諸寺の名僧あり法華と講

梨として菩薩戒ありし法舒長祚と稱す之慶三年二月廿二日薨す

東梅津
長福寺



新徳地

寺法西



は皇后慈仁に及至り東西兩京の藥兒孤孩を拾ひ養ひ給ひ乳母を
給ひ養育するに及ばず又差峩乃故宮を精舎とて大覺寺とす
は側小濟治院を建て僧尼の病者を療治し厚和院とて道場を
さるる塔五十五又曰長十餘二月廿八日酉天皇厚和院を遷座
して淨位天皇太子を遷すなり同卷

西院乃后行くは松をせめておこさるるを
くくは松院の中松をせめておこさるるを
後集

は所其後源氏乃公卿の字室は故源氏の長者なる人當院に別當
小補正は後小松院清宇永徳三年の春鹿園院義満公を大徳
源氏乃公卿乃別當に納言はひ大徳は任松兼帯せしむるなり

春日社 西院村乃小の松乃中ありは神祇官は故神祇
官春日社と松と土人産以神と成神祇は九月九日神輿二基

住吉社 同村西の南半町にありは神祇官は故神祇
當社を距鎮守なり地の字と寺の地と六月廿八日神祇あり

日照山高山寺 西院村東の降土宗ありて本尊は子安地藏菩薩
入口あり

惠心乃化之初山嶽横川に安置しありは入寂の後志願里
本村成近尊信してこれと家小安並其後逆乱に罹てはる係
抱き小園して落行く系江別堅田に傍田中は平林に棄並たり

夫よりは所夜毎光明赫奕して白日如し村人おれと奇ありて
乃より見る地藏尊と信する即小堂と嘗て田中の地藏尊と信し
文永年中堅田住人名村小左重後夫婦子のまれば本報然ては尊像小
祈誓すかれを忽性身小成月満て男子と考ふ是より子安の尊像と
号し又曆應の足利尊氏將軍淨歸依ありて洛の西今れ地を遷佛
仰附られ洛陽六躰地藏巡り乃其一尊とあり

第一壬生乃第二者乃
第三蓮臺地蔵尊

第四川崎清院乃五祇陀林寺 又其後東山殿 義政
第六鳥邊野寶積寺は六ヶ所なり

小乃方清平産れ験ありそれより累年は地安並して靈應はる隆之
冠石 當寺本堂乃法守乃傍あり 棟松 本堂の後庭上ありは葉壯
高六尺餘冠の形とあり 棟松 本堂の後庭上ありは葉壯
高六尺餘冠の形とあり

秀傳庵 同村春日社にありは禪宗ありて妙心寺大光院乃隱居所なり
同村春日社にありは禪宗ありて妙心寺大光院乃隱居所なり

宗圓寺 同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に
同村街道の南一町ありて本尊聖觀音ありて禪宗黃檗派に

寶藏院 同村宗圓寺の南に隣りて宗尊阿彌陀如来に則當村の

宗尊阿彌陀如来に則當村の宗尊阿彌陀如来に則當村の

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

野宮 西院村五町より生遷り西院の中ありけ所ハ巖我小祠しく齊

堂の内とふつらなる乃字の寄一寺ありて遷せ候

津寺 行基乃化形あり用基詳あり候

三宮 神樂の所あり候

桂里 神樂の所あり候

後重 久々の中なる川れりいみふ契もやん飯まらん

新古 久々の中なる川れりいみふ契もやん飯まらん

續後重 久々の中なる川れりいみふ契もやん飯まらん

年奥ハ河の名産あり候

六帖 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候

藤原兼房 藤原兼房山莊あり候



案内ふくして
 霧族の道ちね
 行へ好むるもの
 雪解の旦文之
 乃後細谷川の
 おかまも水塔り
 て膝ふ足とる
 御文礮大井川
 へ不荒くして
 歩く見ゆ所も
 足旅入とをわい
 例まて歸る
 来多しこれぞ
 老るるた時へ
 近憂あらん
 の誠るらん





老の坂



丹波

丹波

丹波

伊勢宅

住するより法之ふくむて梅乃花小むじ

新置梅乃花をさへんはららるるてかまらるる人 享子臣

御霊社

上桂下桂小同神兩社あり土人生土神と伝之は八月十八日神

保古羅明神社

土人生土神と伝之は八月十八日神

子敦盛奮跡

敦盛の奮跡居して男子一人誕生に具より保之乃

蓮生寺

上次世乃西小下津林あり宇津宮蓮生法師の建立と云ふ

觀音堂

同所小あり西津堂と云ふ初堂宇藏今草堂あり

大原野

玉成より凡三里あり丹波街道檜原の末申一里あり大原野

善惠上人塔

西山三鈷寺の山下之町より小あり碑碣は建

小塩山松風

大原小塩山の松乃小松系も本有るにや此松之

善惠上人

傳ニシテ上人諱ハ澄空姓ハ源氏 天曆帝ハ皇德に

源空上人

月輪禪定殿下乃請小ありて選擇集著に善惠上人

小異

殿下善惠宗信一の事初小倍せり師小親灸る年二十

遣迎院

入寂と年七十一世小西山上人といふ降土京一派の風習あり



三つ石
一徳堂

徳
堂

永正寺
入口

村の

物集女
永正寺



水

西山に位けるはむと云きて
草ふたやとのありしと云ふにせと伝るの
慈鑑

西山に位けるはむと云きて
千載のうたはせし世にありての
慈鑑法親王

西山に位けるはむと云きて
西山に位けるはむと云きて
平實方

西山に位けるはむと云きて
西山に位けるはむと云きて
後明内院
入武

西山に位けるはむと云きて
西山に位けるはむと云きて
西山に位けるはむと云きて

長法寺 聖生光明寺より二町あり又村の
當寺乃に什室小唐筆乃に聖殿像あり其形縮れ
横四入又六寸圖とる所は釋迦如來聖殿小入り
出で老眼照佛母夫人の為不出現し

摩耶夫人經 曰
阿那律升天利天以告摩耶夫人摩耶自天而下棺自爲

阿那律夫人經 曰
開世尊起合掌曰遠下來復語阿難曰汝當知爲後世
不孝衆生故從金棺出問訊於母已上佛祖統紀

立願山揚谷寺 揚谷にあり前編出としを
尺之脇土に將軍地蔵毘沙門天の立像之當寺に句院
水觀上人に地蔵樓あり其本尊が威得力あり

楊柳水 本堂乃にうらふあり眼疾ふは水と
獨鈷水あり 夫婦石 前二町あり由來詳る

淨土谷 柳谷乃に眞十町餘あり民ありて村乃に
淨土山兼願寺 同所民家乃に中小あり今總堂なるに

鎮守社 堂乃に生土の神あり伊勢賀茂都の化
田畠の穴のてはとて釋迦堂觀音壇柵杆房等の名あり

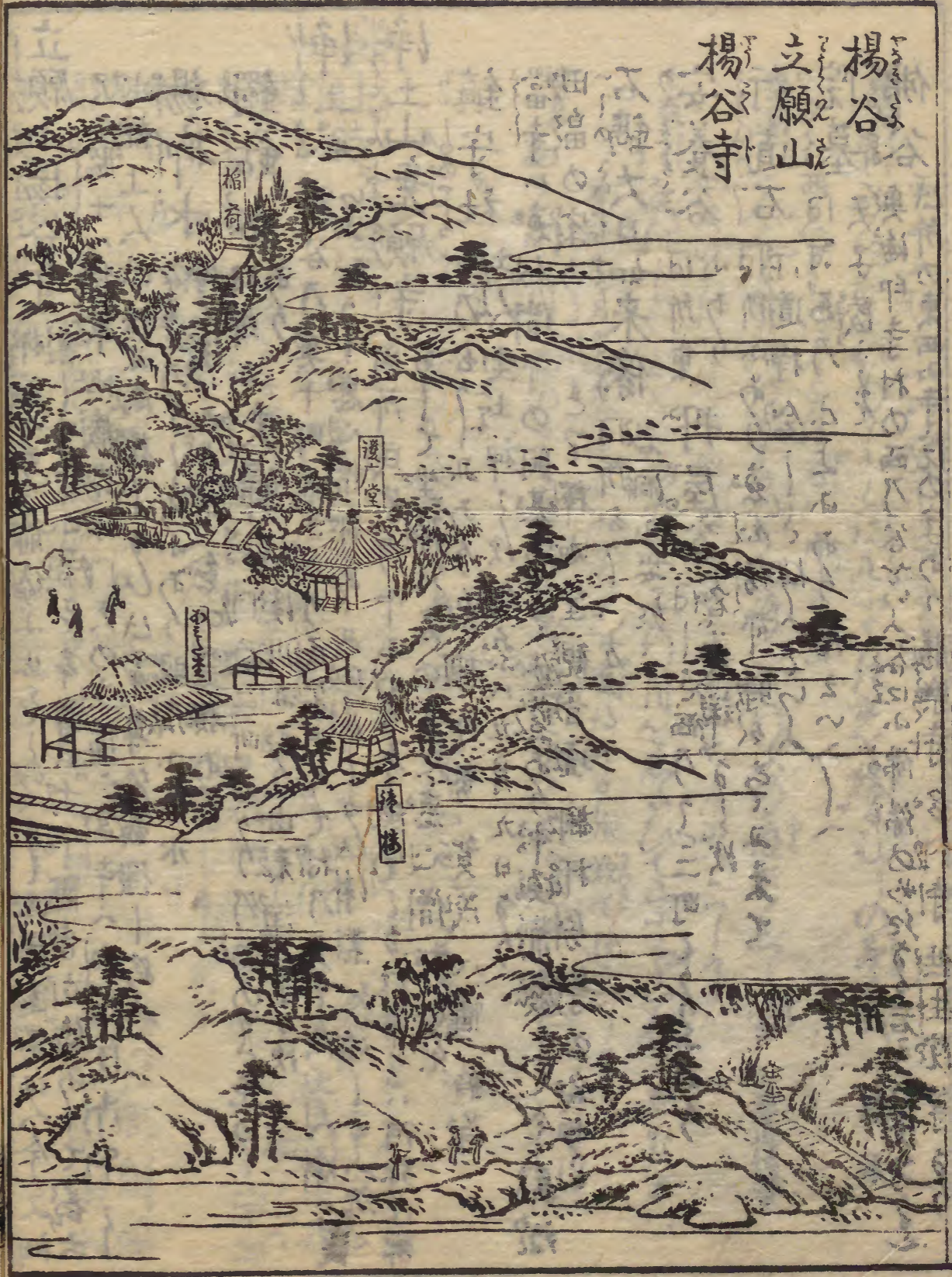
石鑄大日如來像 岩洞にありの方
安養谷にあり 丹屋谷にあり

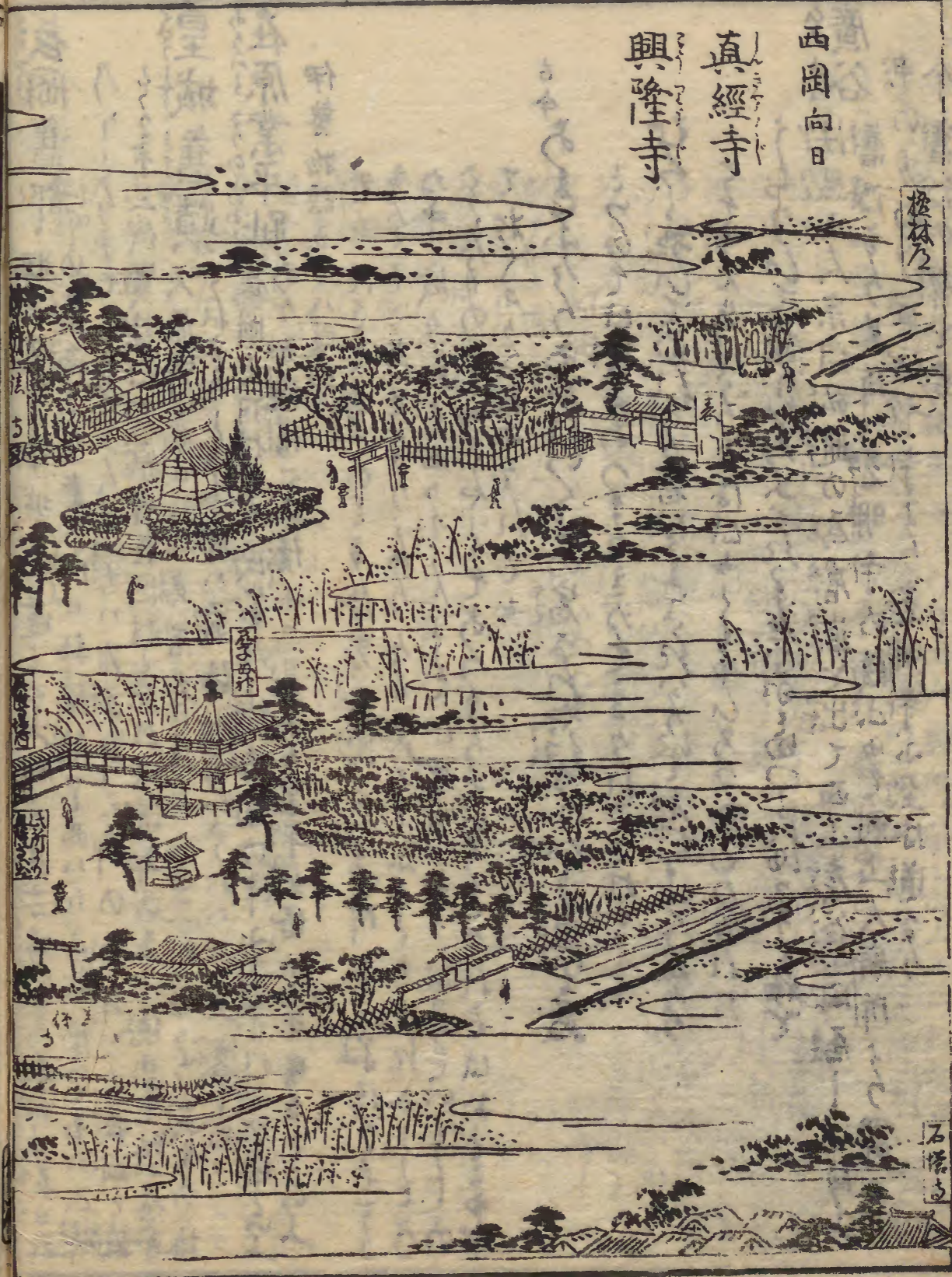
行道石 道所あり 義詳る

佛谷 奥海印寺村の西乃谷と云ふ谷に佛像あり岩を
け所の東西乃寺院の字あり 勝樂寺 多門寺 生院寺あり

院墓 天子陵と云ふあり 竹といふ

佛谷 奥海印寺村の西乃谷と云ふ谷に佛像あり岩を
け所の東西乃寺院の字あり 勝樂寺 多門寺 生院寺あり





西園向日
真經寺
興隆寺

極林乃

石橋



西園
鶏冠井村
檀林

長岡天満宮

岡田村の西小あり由海蔵（傳）當社清鎮坐のくわ久代

は地小弘法大師（傳）此因基し移入真言の精舎あり厥后世々大師（傳）燒身
住職之て本尊の薬師佛と安んじ今乃上羽村の多ふ立系業平卿の
亭宅あり其頃の管並相（傳）まじ清幼年小はしく業平卿清在館の時に
管公（傳）しありく伴（傳）ひては降（傳）利ふし清之（傳）運（傳）ましくわ管（傳）弦（傳）を（傳）まじ
しと業平卿段し移（傳）ひて後（傳）も時々（傳）け寺小入樂ありて雪月の風を（傳）成
感し勝景と歎（傳）ひ移入住僧と清知年（傳）りの清馴深（傳）るん懇志と運
び儀の（傳）後（傳）餐應中（傳）はれり時小昌泰四年管公を宰府小謫遷し移入
住僧驚（傳）き累年の郷信るんを清餘（傳）は移み定（傳）ち移居の（傳）か（傳）りふ
趨（傳）く別後（傳）救行ありて社と志（傳）ぼりりる管公其時（傳）の（傳）尊容を（傳）りし
住僧（傳）小授與し移入それより之歳と歴て管神（傳）祝紫ふかむて莞清し
移入（傳）成聽（傳）侍人（傳）は地小清社とい（傳）りるこの神係と安平（傳）相（傳）善（傳）教（傳）れし
る星霜累（傳）て堂宇も荒廢しわれも清社の（傳）教（傳）傳（傳）り
（傳）茶師佛の（傳）勝（傳）十二（傳）神
（傳）の月一（傳）輪（傳）海（傳）を（傳）今

神樂殿乃傍 神扉（傳）秘封ありて遷宮の耐（傳）清鎮主京極殿より神宮者

田家（傳）清頼ありて執行（傳）ひ移入（傳）移入今も神威（傳）はら志（傳）ふくして猶人（傳）つ（傳）ふ

絶間（傳）あり書画乃奉納（傳）舞曲（傳）を（傳）まじるの奉樂ありて社頭乃賑（傳）ひ殊

さう（傳）近（傳）き（傳）少（傳）境（傳）地（傳）の（傳）風（傳）涼（傳）補（傳）を（傳）ありて表（傳）の（傳）と（傳）りる日（傳）け（傳）ふ（傳）松（傳）乃（傳）緑

ま（傳）く（傳）梅（傳）乃（傳）香（傳）一（傳）は（傳）ふ（傳）白（傳）い（傳）ほ（傳）く（傳）枝（傳）の（傳）垣（傳）根（傳）小（傳）神燈乃（傳）か（傳）け（傳）輝（傳）を（傳）桜花

の（傳）朧（傳）を（傳）ら（傳）り（傳）た（傳）い（傳）ま（傳）さ（傳）さ（傳）め（傳）つ（傳）る（傳）の（傳）如（傳）花（傳）小（傳）押（傳）ら（傳）む（傳）池（傳）の（傳）面（傳）れ（傳）つ（傳）ら（傳）さ

葦（傳）あ（傳）や（傳）草（傳）田（傳）亦（傳）楓（傳）早（傳）乙（傳）女（傳）の（傳）室（傳）白（傳）く（傳）蟬（傳）の（傳）聲（傳）の（傳）指（傳）涼（傳）系（傳）鳴（傳）つ（傳）ま（傳）る

夕暮（傳）林（傳）の（傳）空（傳）と（傳）人（傳）晴（傳）と（傳）て（傳）月（傳）の（傳）陰（傳）清（傳）く（傳）虫（傳）の（傳）音（傳）を（傳）と（傳）志（傳）げ（傳）く（傳）池（傳）頭（傳）乃

楓樹（傳）の時と（傳）移（傳）て（傳）紅葉（傳）蜀錦（傳）の（傳）風（傳）小（傳）飄（傳）る（傳）ら（傳）た（傳）の（傳）ち（傳）る（傳）君（傳）は（傳）花（傳）や（傳）

小出（傳）て（傳）着（傳）海（傳）波（傳）と（傳）舞（傳）移（傳）ら（傳）た（傳）も（傳）ち（傳）合（傳）さ（傳）れ（傳）の（傳）初（傳）雪（傳）れ（傳）あ（傳）ら（傳）ふ（傳）ら

は清神（傳）小（傳）借（傳）して（傳）わ（傳）ち（傳）と（傳）な（傳）り（傳）し（傳）む（傳）ら（傳）り（傳）云（傳）傳（傳）人（傳）乃（傳）都（傳）て（傳）は（傳）地（傳）の（傳）因

縁（傳）ありて（傳）風（傳）色（傳）の（傳）真（傳）妙（傳）小（傳）勝（傳）ま（傳）る（傳）と（傳）た（傳）れ（傳）る（傳）管（傳）神（傳）風（傳）流（傳）好（傳）之（傳）移（傳）ら

神（傳）意（傳）を（傳）小（傳）現（傳）と（傳）ひ（傳）り（傳）移（傳）今（傳）小（傳）か（傳）へ（傳）と（傳）あ（傳）は（傳）べ（傳）し

仁和山三尊寺 阿彌陀佛立像二尺七寸

鎮守祠 佛殿乃傍あり勸請所 雨寶童子と安んじ又後内弘法

三尊寺 乃傍あり勸請所 雨寶童子と安んじ又後内弘法

入定塔 寺の義詳なり 傳記を以て之を祖

神足社 阿彌陀佛の南十町ありて宿院村あり 坐像二尺五寸之勝土ハ

勝龍寺 本尊ハ十一面觀音乃之傍長七寸之阿彌陀佛 坐像二尺五寸之勝土ハ

正氣山成就院 阿彌陀佛の南十町ありて宿院村あり 坐像二尺五寸之勝土ハ

毘沙門天 甚慶の尤之不動尊ハ弘法大師の

白山社 阿彌陀佛の南十町ありて宿院村あり 坐像二尺五寸之勝土ハ

成恩寺 阿彌陀佛の南十町ありて宿院村あり 坐像二尺五寸之勝土ハ

袖摺松 阿彌陀佛の南十町ありて宿院村あり 坐像二尺五寸之勝土ハ

神降山 阿彌陀佛の南十町ありて宿院村あり 坐像二尺五寸之勝土ハ

都名所圖會拾遺卷之三終

惠
芳
院